

平成19年度 環境省
「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」

 業 務 報 告 書

平成20年3月21日
株式会社日立製作所

目次

各章は、本事業の仕様にに基づき定める。

1. 今年度の事業実施概要と全体的な評価	2
2. 「持続可能な地域づくり・社会づくり」への貢献について	6
3. 個別 ESD 事業に関する報告	8
4. ESD 実施・推進の体制・仕組みに関する報告	18
5. ESD の実施・推進・仕組み作りに際して参考になるポイント	22
6. 推進室メンバーの反応	24
7. 来年度以降の活動概要、推進室の体制	28
8. ESD 促進事業の有効性について(意見・提案)	30
9. 添付資料	32

今年度の事業実施概要と全体的な評価

1. 今年度の事業実施概要と全体的な評価

本事業では、「人・自然を尊ぶ心の育成」を目指し、ギフチョウエリアの拠点校として、東高森台小学校区を拠点とした絆再生プロジェクト「かすがいKIZUNA」を確立する。

（１）中期目標

本事業「絆再生プロジェクト『かすがいKIZUNA』」では、多種多様な人間と自然が共生し合う春日井市において、「人と自然の命を尊ぶ心を育成」する。

■本事業では、最小のコミュニティを学区と捉え、児童教育を中心に学区の希少な動植物と人間の共生環境を築く。【人と自然の絆】

■自然と人間の共生環境を築く過程で、地域の多種多様な人の存在と課題を児童が学ぶ。さらに、多種多様な人々が共生しやすい社会を創造し、共生の証として、学区に「絆の樹」を植樹する。

【人と人との絆】

（２）平成 19 年度事業の目的・目標

■事業の創設

絆再生プロジェクト「かすがいKIZUNA」の2大事業「KIZUNAラーニング」及び「KIZUNAコミュニティ」を確立するため、ギフチョウエリアの拠点校として、東高森台小学校にて、本事業の有効性を検証する。

■事業の運営

本事業を推進する「かすがいKIZUNA推進室」を設立し、中部大学に拠点を置く。
同推進室は、運営母体であるとともに、「情報発信センター」として、HPなどで情報を発信する。
また、本事業の継続的運営を目的に、各学区に「かすがいKIZUNA」を展開する「KIZUNAコーディネータ」を育成する。2007年度は、中部大学の大学生を対象に、2名（3年生1名、4年生1名）を輩出する。

(3) 平成 19 年度事業の全体像

図 1 に平成 19 年度事業の全体像を示す。

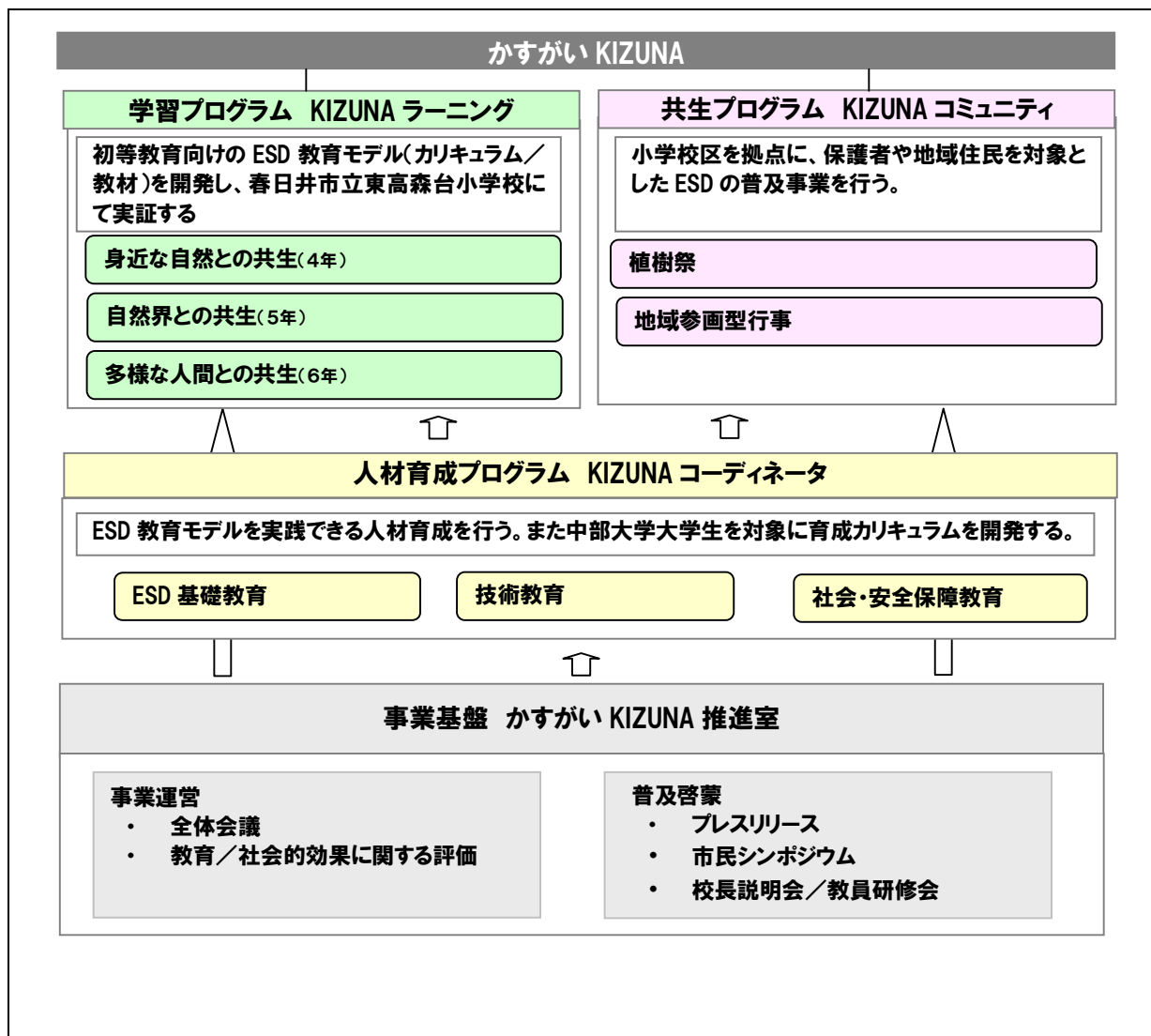


図 1 全体像

(4) 平成 19 年事業全体としての成果と課題（全体的な評価）

表 1 に事業全体としての成果と課題を示す。

表 1 平成 19 年事業全体としての成果と課題

No	区分	成果	課題	対策
1	KIZUNA ラーニング	①9割の教員が「社会性の育成や社会経験の蓄積に効果的」 ②「家族と自然保全／観察」する児童が 7月：4割→11月：8割	①教育目標の理解に教員間の温度差 ②「学力向上の効果がみえにくい」	①教員に対する研修会実施や指導書開発。 ②教材／カリキュラムの改良。
2	KIZUNA コミュニティ	①保護者向けイベントに延べ1000人参加。 ②100組の親子が「互いを思う気持ち」を 短冊に記載。 ③9割の保護者が「親子の絆を考え直した」	①実行委員等の人脈やPTA 役員による集客が中心のため、参加者層に偏り。	①教育委員会等、市との連携。 ②PTA 広報などの活用。
3	KIZUNA コーディネータ	①8人が全プログラムを修了。 ②全員が、ESDに関する説明が可能。 ③延べ30回の初等教育向け教育活動を実施し、リーダー的資質が向上。	①応用生物学部の学生有志を対象。 ②自然保全／福祉関連の講義が中心。	①実施母体を中部大学へ移管し、大学教育（7学部横断カリキュラム）の一環でコーディネータの育成を進めることを検討中。
4	運用基盤 KIZUNA 推進室	①福祉／国際理解に関する人材の増員。 ②中部 RCE 拠点との運用ノウハウや人的資源の共有。	①団体としての参加が得られにくい。 ②行政、企業との提携や共催実績がない。 ③資金の調達。	①中部大学に実施母体を移管。 （行政や企業との連携を推進、教育事業として、補助金等に申請）

「持続可能な地域づくり・社会づくり」への貢献について

2. 「持続可能な地域づくり・社会づくり」への貢献について

(1) 2006 年申請時の「地域の課題」に関する改善状況

愛知県春日井市は、環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているギフチョウの生息地である。それらの保護、回復に対し、本推進室では、ESDの観点から愛知県春日井市における対策を3点抽出した。これらの対策の実施状況と課題の改善状況を表2に示す。

表2 課題と改善状況

課題	対策	改善状況
ギフチョウの絶滅の危機	環境保護団体／地方自治体／地域住民の連携	春日井市内の中部大学を拠点にKIZUNA推進室を立ち上げ、複数の環境保護団体や学生、PTA／保護者など、多種多様な人々の連携基盤を確立している。このように環境保護団体／地方自治体／地域住民の連携については改善した。しかし、環境保全に関わる個人のつながりに止まり、ESD的観点から鑑みた際、国際や福祉に関する横のつながりは、まだ一里塚にある。
	戦略的な保護／育成計画の策定	KIZUNAラーニング及びKIZUNAコミュニティという2大事業を確立し、ビオトープを主体とした幼児・高齢者を含めた地域参加型の自然保護・育成活動を拡大した。このように、戦略的な保護／育成計画の策定については、改善した。
	保護に向けた技術と実践	中部大学応用生物学部や環境保護団体がもつ技術を市民に分かりやすく伝えるよう、教材／カリキュラムを整備し、実践した。このように、保護に向けた技術と実践については、改善した。

(2) 「持続可能な地域のビジョン」

本推進室では、地域のビジョンを下記のように掲げている。

「環境資源」及び多種多様な「人的資源」をつなぐESDネットワークの形成

具体的には、多種多様な人間と自然が共生しあう社会を実現するため、次の環境を構築する。

「人と自然の絆」希少な動植物と人間の共生環境を築く。

「人と人との絆」多種多様な人の存在と課題を学び、人々が共生しやすい社会を創造する。

(3) 今回のESD事業と「世界の持続可能な社会づくり」のつながり

今回のESD事業では、愛知県春日井市の東高森台地区を拠点にESDネットワークを構築する。このネットワーク構築手法を他の自治体に展開していくほか、国際理解教育を通じて市民レベルがESDの理念を共有することで、世界規模のネットワークを形成する可能性はある。

(4) 「ESD」の定義

本推進室では、ESDを「持続可能な社会の形成に向け、人々が自分の役割や位置づけを理解し、自然や人々と共生すること」と捉え活動している。

個別ESD事業に関する報告
(1)学習プログラム KIZUNA ラーニング

3. (1) 学習プログラム KIZUNA ラーニング

KIZUNA ラーニングでは、身近な自然を入り口として、「国際教育」や「共生教育」に発展させ、最終的には持続可能な社会の根幹をなす人と自然の命を尊ぶ心を育成する。「なぜだろう」という自然現象の観察から「社会のバランスの崩れ」という課題を見出し、解決に向けて「あらゆる生命体を支える社会構造の理解」と「課題解決の実践」に発展する。本報告書では、学区の課題共有から世界の課題追求を学習した5学年の事例を紹介する。

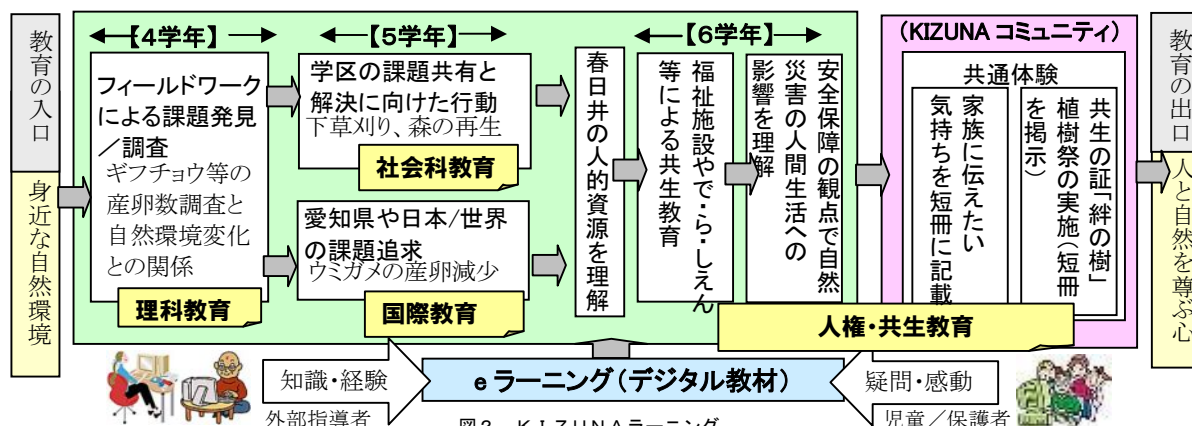


図2 KIZUNAラーニング

表3 KIZUNAラーニングの実施内容等

No	区分	内容		
1	プログラム名	自然界との共生 (添付資料A)	身近な自然との共生 (添付資料B)	多様な人間との共生 (添付資料C)
2	対象者	東高森台小学校4学年	東高森台小学校5学年	東高森台小学校6学年
3	達成目標	生物の命を思いやる心の育成	グローバルな視野で自然界／社会を大切に思う心の育成	人を思いやる心の育成
4	実施内容	以下、5学年のプログラム「身近な自然との共生」を特記。 ■10時間のESD 学習カリキュラムを開発／授業を実践 ①森の健康診断(10月12日) 中部大学応用生物学部を中心とした大学生(KIZUNAコーディネータ)が、森林の基礎的な健康状態を調査する手法を小学生向けにアレンジ。校区の里山で木の密度や土壌の状態を調査した。 ②身近な自然災害(11月14日) 中部大学の大学生が東海豪雨の歴史や被害状況を伝えるとともに、調査結果を分析し、森の健康を維持するには人の利用が不可欠であることを学習した。 ③世界・日本の災害(2月19日) ユネスコ名古屋により、地球温暖化や砂漠化の現状、及び世界の人々の生活状況の違いなどを伝え、視野を広げる。 ④自然と人間の共生(3月12日) 愛知県内の環境汚染や生態変化に関するケーススタディを行い、自然と人間が共生していくうえで必要な考え方などを理解する。		
5	プログラムの特徴・工夫など	■ 自然・社会・経済の全ての分野を学習できるカリキュラム ■ 「なぜだろう」という疑問を基点に、情報を多面的に収集し、解決策を導き出す授業構成		

6 事業の成果

■ ESD 教育モデルの確立

①カリキュラム:10時間分の学習カリキュラムを確立・実践

加賀市立EJUNIA2007 東高森台小学校児童 環境教育									
学習目標 学習目標を達成するための学習活動									
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
学習目標	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践					社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践			
学習活動	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践
学習目標	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践
学習活動	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践
学習目標	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践
学習活動	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践
学習目標	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践
学習活動	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践
学習目標	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践
学習活動	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	自然環境の保全・発展・持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践	社会・経済・文化・環境の持続可能性の理解・実践

② 教材:以下の教材を開発

観察記録用ワークシート	授業まとめ用教材
	
デジタルクイズ教材	デジタルアンケート
	

③ 教育的効果

6月と11月に東高森台小学校児童を対象にアンケート調査を行ったところ、外国の森林伐採や砂漠化に関する理解が24%増(6月:40%→11月:64%)近所の人と草刈やゴミ拾いをしたことがある、との回答が12%増(6月:65%→11月:77%)など、知識や行動に変化が見られた。

7 今後に向けた課題・改善点

- 継続的な実施、他校への展開を見据え、本カリキュラムを教員自らが行えるよう、指導書の開発／研修会の実施などを検討。
- あらゆる教員に対し、ESD 教育の意義を再徹底することが必要。

8 参加者の反応

東高森台小学校教員へのアンケート調査により、9割の教員が「社会性の育成や社会経験の蓄積に効果的」と回答した。また専門的な立場の指導者や学生との活動により、環境に対する意識や知識は深まったという意見が多く寄せられた。

個別ESD事業に関する報告
(2)共生プログラム KIZUNA コミュニティ

3.(2)共生プログラム KIZUNA コミュニティ

KIZUNAコミュニティでは、KIZUNAラーニングを通じて発見した自然の課題や重要性を学区に住む住民に発信する。また、児童と住民が一体となって自然を保全することで、人と自然が共存するための生活環境を構築する。表4に実施内容等を示す。

表4 KIZUNAコミュニティ実施内容等

No	区分	内容
1	プログラム名	共生プログラム KIZUNA コミュニティ
2	対象	児童の保護者、地域住民等
3	達成目標	■ NPO で・ら・しえんなどが、児童に対して人権・共生教育を実施し、学区に存在する多種多様な人々の存在や特長、生活上の課題を理解する。 ■ これらの多様な人々が利用しやすい自然環境を整備し、調査／観察／活動を支援するガイドブックを作成する。 ■ 2回／年の共生プログラムを開催し、児童自らが住民の手を取り、共に調査／観察／活動を行う。これらの活動をもって、共生の証である「絆の樹」植樹祭を実施する。 ■ 一連の学習活動を経て、児童に、<u>教育目標である「人の命を尊ぶ心」、連帯感を育成する。</u>
4	共生プログラム	① 地域参画行事:もちつき大会(添付資料D) ② 植樹祭(添付資料E)
5	目標達成のために 行った工夫	■ 多種多様な人が集う機会を設置し、互いの交流を深める。 ■ 親子の存在を尊重するため、短冊に相手に対する言葉を記した。
6	事業の成果	■ もちつき大会、植樹祭と2回、共生プログラムを実施した。 ■ 述べ200名の保護者が参加し、子どもにとって必要な資質などを理解した。
7	今後に向けた 課題・改善点	■ より多くの保護者を参加させるよう、アプローチを再考する。

個別ESD事業に関する報告
(3)人材育成プログラム KIZUNAコーディネータ

3.(3)人材育成プログラム KIZUNA コーディネータ

「かすがいKIZUNA」を推進するため、各学区に展開する「KIZUNAコーディネータ」を育成した。本推進室では、中部大学と連携し、大学生を対象にOJTにて育成する。実施内容等を表5に示す。

表5 KIZUNAコーディネータ実施内容等

No	区分	内容
1	プログラム名	KIZUNAコーディネータ育成プログラム
2	対象者	中部大学大学生
3	達成目標	■ KIZUNAコーディネータ育成カリキュラムを開発 ■ 3年生1名、4年生1名を対象にKIZUNAコーディネータを育成
4	実施した内容	① ESD基礎教育 ESDの基本的な考え方や国連の施策、地域の自然や文化に関する指導を実施(添付資料はなし) ② 技術教育(添付資料F) 里山の歴史や観察・調査技術を習得 ③ 社会・安全保障教育(添付資料G) 春日井市の社会制度や福祉事業を学習
5	プログラムのESDらしさ	■ 春日井市少年自然の家やNPO(自然保全・福祉)と外部連携を進め、多面的な講義を実施。 ■ 知識や技術を習得し、自らが小学生に伝え効果を分析するPDCAサイクル型のプログラム
6	プログラムの成果	■ 4年生2名、3年生2名、2年生8名がKIZUNAコーディネータ育成プログラムの全講義／実践に参加。一部の講義には、50名が聴講した。 ■ 特に、4年生1名については、授業企画から運営までのPDCAサイクルを実践し、コーディネータ育成カリキュラムの基盤となるモデルが策定された。 ■ 東高森台小学校教員へのアンケート調査により、9%の教員が「学生の指導内容や教材の妥当性」に高評価を与えた。
7	参加者の反応	■ ESDの観点で社会と関わる資質 常にESDの意義を理解しながら、各事業の企画、実行を行った。 ■ リーダーとしての資質 児童や各委員と関わる中で、責任感が高まった。 ■ 教育者としての資質 「教育者」としての使命はあるものの、技術的な課題は残る。 (詳細はP25、添付Xに示す)
8	今後に向けた課題・改善点	■ 体制拡大に向け、実施母体を中部大学へ移管し、大学教育の一環でコーディネータの育成を進めることを検討中。 ■ コーディネータ育成カリキュラムの充実化(多様化社会や経済教育などの授業を実施) ■ ESD基礎教育の体系化と講義内容の確立。

個別ESD事業に関する報告
(4) 情報提供及び情報収集への協力

3. (4) 情報提供及び情報収集への協力

本推進室では、ESD全国事務局にて運営するウェブサイトを実施状況を掲載するため、全国事務局に対し、情報提供を行った。また、推進室にて行う会議は公開し、地方事務局などを通じて1回/月程度、情報提供を行った。



ESD実施・推進の体制・仕組みに関する報告

4. ESD実施・推進の体制・仕組みに関する報告

(1) 推進室の体制(立ち上げ当時の状況と現在の状況)

表6 推進室の体制

No	かすがいKIZUNA推進室	設立時(2007年7月)	新規参加(2008年2月)
1	とりまとめ	かすがいKIZUNA推進室長	心身障害者コロニー、春日井市内の福祉施設8か所、NPOで・ら・しえん、愛知県環境調査センター、名古屋ユネスコ協会【オブザーバ】春日井市小学校校長会
2	KIZUNA	カリキュラム設計	
3	ラーニング	eラーニング運営	
4		授業設計	
5	KIZUNA	プログラムの企画	
6	コミュニティ	会場設計	
7	広報	広報／情報発信	
8	管理	事業評価	
9		事務会計	

(2) 今回の事業を通して確立したESDを実施・推進する仕組み

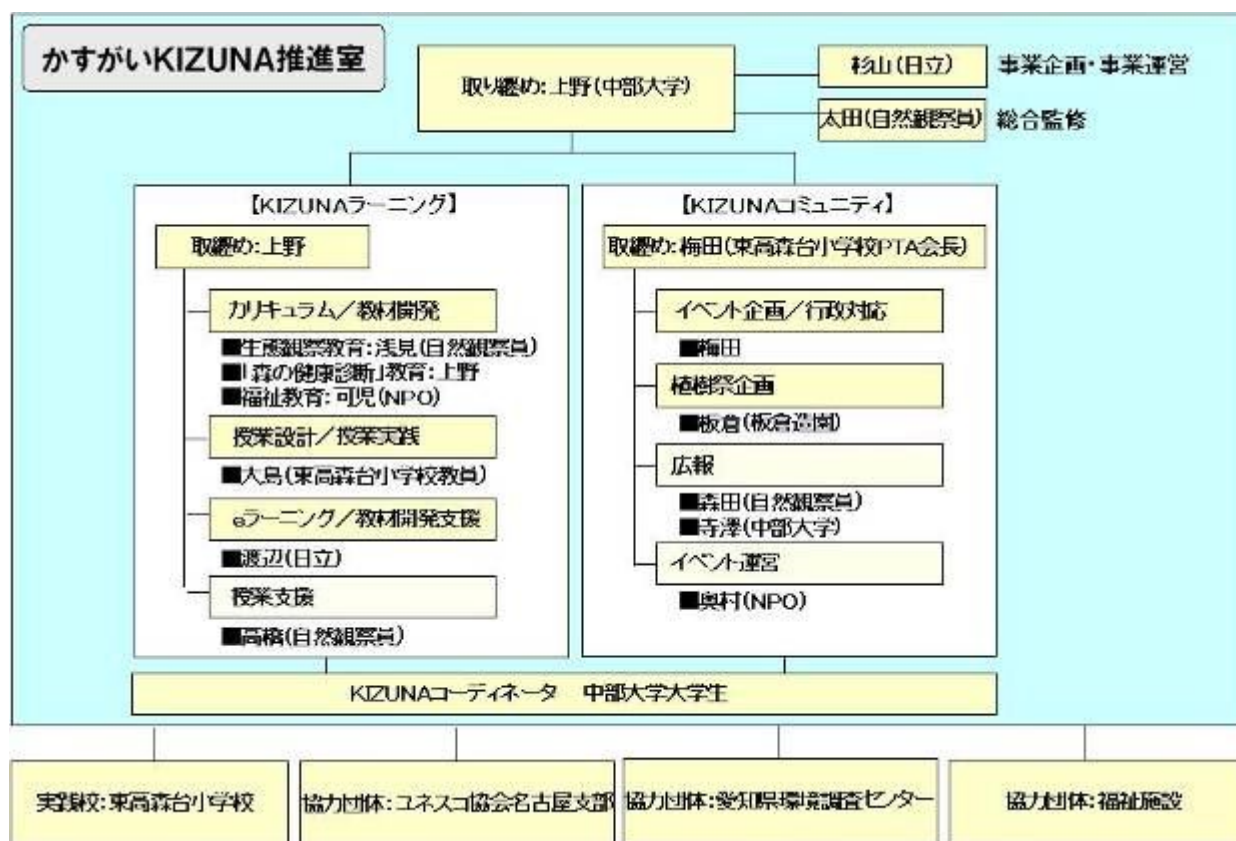


図3 ESDを推進する仕組み

(3)ESDを実施・推進する仕組みづくりの過程の評価

表7 ESDを実施・推進する仕組みづくりの過程の評価

よかった点	■ 実証校である東高森台小学校校長／教員と連携し、春日井市小学校校長会への定期的な報告を行った。 ■ 中部大学が事務局を務める中部 RCE 拠点のシンポジウムなどを通じ、相互の人的資源の活用／ノウハウの共有を行った。 ■ KIZUNAラーニングやKIZUNAコーディネータの講師としての関わりを通じ、設立当初の課題であった福祉や国際分野の団体との連携が拡大した。
失敗例	■ 個人としての参加が得られても、団体としての参加は未だ得られにくい。 ■ 春日井市の施策などとの提携が未整備 ■ 企業の参加実績がない。
今後に向けた課題	■ 本取組に参加するメリットの抽出 ■ 春日井市に対する提言(市制との連携) ■ 春日井市商工会議所や中部大学のOB会に対する意識調査とアプローチ法の抽出

(3) 本推進室の検討内容

表8 かすがい K I Z U N A 推進室の検討内容

No	月	日	段階	参加者数	主な検討内容	資料
1	6	14	計画策定	10名	平成19年度企画の説明 ・KIZUNA ラーニング、KIZUNA コミュニティ	H
2		28		6名	関係者との調整結果の報告 ・KIZUNA ラーニング 東高森台小学校教員との打ち合わせ状況を報告 ・KIZUNA コミュニティ PTAとの打ち合わせ状況を報告	I
3	7	10	実施内容検討	7名	プログラム詳細の策定 ・KIZUNA ラーニング: 詳細を策定。 ・KIZUNA 推進室: 市との連携状況などを報告。	J
4		24		8名	プログラムの進捗状況確認 ・KIZUNA ラーニング: 学年ごと、進捗状況を報告。 ・中部大学が春日井市長に挨拶にいった状況を報告。	K
5	8	23	進捗状況確認	13名	プログラムの妥当性の再確認 ・中部 EPO とともに目標を再認識。	L
6	9	10		11名	プログラムの妥当性の再確認 ・事業の進捗報告 ・中部 EPO から状況整理結果を報告。	M
7	10	4		18名	プログラムの進捗状況確認 ・事業の進捗状況報告。大学生の自己評価を行う。	N
8		17		11名	プログラムの進捗状況確認と今後の実施内容 ・KIZUNA コミュニティ(もちつき)を中心とした企画立案。	O
9		30		8名	プログラムの進捗状況確認と今後の実施内容 ・KIZUNA コミュニティ(植樹祭)を中心とした企画立案。	P
10	11	15		13名		Q
11	12	3		13名		R
12	1	14	次年度の計画	14名	進捗状況報告及び残作業の確認	S
13		30		11名		T
14	2	19		13名		U
15	3	11		9名	今年度の課題と次年度の方針に関する協議	V

ESDの実施・推進・仕組み作りに際して参考になるポイント

5. ESDの実施・推進・仕組み作りに際して参考になるポイント

(1) 体制作り、維持に関して

- ① ESD推進体制に多様な主体（行政、教育委員会、企業など）を巻き込む方法
 - (i) シンポジウムの共催／後援などを通じて、取組内容を周知化させる。
 - (ii) コーディネータへの評価など、具体的な役割を設定する。
 - (iii) K I Z U N A ラーニングやK I Z U N A コーディネータのカリキュラムに講師として関わりをもたせる。
- ② 事業や体制を継続する財源を確保する方法
 - (i) 当面は、様々な主体が補助金や委託金に申請し、運用資金を調達する。
 - (ii) 実績を積み上げた段階で、行政や教育機関の施策に組み込む。
- ③ 学校や行政の継続的な関わりを構築する方法
 - (i) 学校については、教育課程に位置づけるほか、P T A や保護者会行事に組み込む。
 - (ii) 行政については、自治体の施策に沿った取組を推進する。

(2) 協働を生み出す運営に関して

- ① 関係主体の協働にあたっての成功の要素、配慮事項
求心力となる組織を形成すること。本取組の場合は、中部大学に拠点を置いた。
- ② 関係主体の連携による相乗効果を引き出すための工夫、役割分担における配慮事項
多様な専門性を組織に取り入れることが重要である。
- ③ 効果的な会議運営に関する工夫、合意形成における工夫
定期的な会議を設け、事前に議題をメーリングリストなどで共有した。また、K I Z U N A ラーニングとK I Z U N A コミュニティを分科会形式にし、具体的な内容は各担当者で協議した。

6

推進室メンバーの反応

6. 推進室メンバーの反応

(1) ESDに参加してよかった点

- ・ 様々な専門性をもった人々の価値観に触れることができた点
- ・ 自己の役割を認識できた点
- ・ 子どもたちの教育や社会形成に直接携われた点

(2) 課題

【事業】

- ・ 本来目的(命を大切に作る人間の育成)を達成できたかが曖昧
- ・ 育成対象は小学生だけに絞り込むか見直しが必要
- ・ 教育内容は充分か(質・量)検討が必要
- ・ 小学校教員／保護者の理解は得られたか見直しと改善策の策定が必要

【組織】

- ・ 春日井市との連携基盤の強化
- ・ 参加学生数／担当教員の増員
- ・ 大学教員／NPO／市民団体／小学校教員／小学校PTAの参加メンバーの増員

【ESDコーディネータ(大学生)育成】

- ・ ESDコーディネータの定義や資質が曖昧
- ・ ESDコーディネータとしての基礎知識・専門知識を習得できたか評価が曖昧
- ・ ESDコーディネータに必要なスキルが育成できたか評価が曖昧
- ・ 参加した学生にメリットはあったか見直しが必要

【経営】

- ・ 必要な経費(謝金／交通費／消耗品／人件費など)の確保
- ・ 経費確保の継続性

(3) 事業の効果検証

以下の要項で定量調査を行った。調査方法等を表9に示す。

表9 効果検証の調査方法等

No	検証内容	事業の教育的効果		KIZUNA コーディネータの育成
1	調査対象	東高森台小学校 5 学年児童 50 名		中部大学教員 1 名 東高森台小学校教員 8 名 中部大学大学生 1 名 (自己評価)
2	調査方法	テスト	アンケート	アンケート
3	調査時期	11月14日	8月20日 11月14日	2月1日～2月20日

■事業の教育的効果

K I Z U N A ラーニング及びK I Z U N A コミュニティを通じた児童に対する教育的効果を算出した。

11月14日にK I Z U N A ラーニングの履修内容を問うテストを実施したところ、平均正答率が7割を上回り、理解が得られたといえる。しかし、問5は、未履修の範囲だったため、正答率が2割程度に止まった。表10に結果を示す。

表10 K I Z U N A ラーニングの履修内容に関する正答率

項番	設問	正答率 (%)
問1	直径15センチの木の円周は何センチでしょうか	72.73
問2	国の面積の半分以上が森でできている国はどれでしょうか	68.18
問3	最も不健康な森はどれでしょうか	86.38
問4	人が木を切ったり植えたりすると森は生物にとって住みにくくなるでしょうか	68.18
問5	森がなくなったらどうなるでしょうか	18.18

また、8月と11月に環境に関する意識を問うアンケートを実施したところ、5つの設問中、4項目について「はい」の回答が増加し、意識変化がみられた。特に伸び率の高い設問4などは、授業において直接触れたことが影響しているが、問5のように実際の活動に移していることから、5学年における目標「グローバルな視野で自然界／社会を大切に思う心の育成」はほぼ達成されたと考えられる。なお、児童の感想は【W】に示す。表11に結果を示す。

表11 アンケートの結果

アンケート実施概要				
・実施日時 2007年11月14日 ・対象 東高森台小学校5学年44名 ・実施方式 調査表を用いた記述式(質問項目5問に対する「はい」「いいえ」二択及び記述)				
No.	質問	はい%	いいえ%	記述
1	休みの日に家族と近くの山に行ったことがありますか	39% (▽1%)	61% (+1%)	◆どこに行くか アビタ(15)、ジャスコ(8)、行きたくない(5)、ナフコ(3)、サティ(2)、本屋(2)、ゴルフ練習場(1)、業務用スーパー(1)、公園(1)、エンチャ(1)、ユニバー(1)、ユニクロ(1)、キリオ(1)、オークルンド(1)、どこにも行かない(1)、山に行きたい(1) ◆誰と行くか 母(8)、家族全員(6)、父(6)、祖母(3)、弟(3)、祖父(2)、姉(2)、兄(1)、友人(1)
2	小さい頃に春日井の山が崩れたり、川があふれたことを知っていますか	39% (+9%)	71% (▽9%)	
3	新聞やテレビで九州の町が水であふれたり、四国で雨がふらず困っている人たちの様子をみたことがありますか	48% (+2%)	52% (▽2%)	
4	外国で山の木がなくなり砂漠が増えていることを知っていますか	64% (+24%)	36% (▽24%)	
5	近所の人たちと草刈りやごみ拾いなどの活動をしたことがありますか	77% (+12%)	23% (▽12%)	

■ K I Z U N A コーディネータの育成

なお、平成19年度は12名の中部大学大学生を対象に、K I Z U N A コーディネータ育成カリキュラムを適用した。特に4年生の1名については、春日井市少年自然の家やN P O（自然保全・福祉）と外部連携を進め、多面的な講義を実施するほか、知識や技術を習得し、自らが小学生に伝え効果を分析するP D C A サイクル型のプログラムを推進した。

K I Z U N A コーディネータに求める資質として、以下を定義した。

- ① E S D の観点で社会と関わる資質
- ② リーダーとしての資質
- ③ 教育者としての資質

同4年生を対象に上記に関わる自己評価及び教員からの評価を行い総合的に判断したところ、①、②については評価が高かったが、教育者としての資質は改善が必要と考える。アンケート内容は、添付【X】に示す。

表12 K I Z U N A コーディネータへの評価

観点	資質	総合評価
① E S D の観点で 社会と関わる資質	意思疎通力	○
	専門知識	○
	専門外知識	○
	状況判断力	○
	協調性	○
	柔軟性	○
	社会常識	○
	問題解決力	△
	議論力	○
	伝達力	○
②リーダーとしての資質	他と積極的につながろうとするグローバル力	○
	組織運営力	△
③教育者としての資質	教材作成力	△
	児童に関する情報収集力	△
	準備時間の確保	×
	教育者としての自覚	○

凡例：○よくできた △できた ×要改善

来年度以降の活動概要、推進室体制

7. 来年度以降の活動概要、推進室体制

(1) 中長期目標

本事業「絆再生プロジェクト『かすがいKIZUNA』」では、多種多様な人間と自然が共生し合う春日井市において、「人と自然の命を尊ぶ心を育成」する。

■本事業では、最小のコミュニティを学区と捉え、児童教育を中心に学区の希少な動植物と人間の共生環境を築く。【人と自然の絆】

■自然と人間の共生環境を築く過程で、地域の多種多様な人の存在と課題を児童が学ぶ。さらに、多種多様な人々が共生しやすい社会を創造し、共生の証として、学区に「絆の樹」を植樹する。

【人と人との絆】

(2) 来年度の活動計画

①事業の継続

絆再生プロジェクト「かすがいKIZUNA」の2大事業を確立するため、東高森台小学校にて、引き続き本事業の有効性を検証する。

②コーディネータの育成

本事業の継続的運営を目的に、各学区に「かすがいKIZUNA」を展開する「KIZUNAコーディネータ」を継続的に育成する。平成20年度は、中部大学応用生物学部の学生を対象に、カリキュラム化の基盤を確立する。

(3) 来年度の ESD 推進体制

平成19年度は、有志が中心であったが、平成20年度は実施母体を中部大学へ移管し、大学教育の一環で事業を進める。現在、文部科学省等の各種補助事業への申請を検討中。尚、平成19年度に開発したKIZUNA ラーニング「自然界との共生」に関しては、小学校教員が自ら指導にあたるよう、平成20年度にデジタル指導書を作成し公開する。そのための経費については、財団法人松下教育研究財団の委託研究費の一部から捻出する(平成20年1月)。

ESD 促進事業の有効性について（意見・提案）

8. ESD 促進事業の有効性について（意見・提案）

- （１）ESD 促進事業で有効であった点・難しかった点
 - ・目標設定や事業の推進に関して、ESD 促進事業を行うことで求心力が生まれた点が有効であった。
 - ・実質半年の間で、２大事業について成果を上げるのが難しかった。
- （２）全国事務局の関与で有効だった点・よくなかった点
 - ・定期的にレポートを提出することによってチェックポイントを設けられた点は有効だった。
 - ・他地域の成功事例や改良点など、ノウハウを共有する機会が少なかった。
- （３）地方環境事務所、地方 EP0 の関与（支援等）で有効だった点、よくなかった点
 - ・シンポジウムなどの情報を提供いただいた点は有効であったと考える。
 - ・事業内容や進め方に関し、アドバイスやサポートが得られなかった。
- （４）今後の ESD 推進に向けて、有効と思われる国レベルのサポート、施策について
 - ・今回のような事業や施策を各地で立ち上げ、それぞれのノウハウを共有できる仕組みを整えていただきたい。
- （５）今後の ESD 推進に向けて、有効と思われる地方環境事務所レベルのサポート、施策について
 - ・事業内容に関し、方向性や進め方に関し、アドバイスをしていただきたい。

9

添付資料

9. 添付資料

(1)目標共有シート(成果目標に関する達成状況の自己評価を記入したもの)

[illegible]

(2)事業全体を説明するパワーポイント資料

1. 絆再生プロジェクト「かすがいKIZUNA」

- (1) 身近な自然環境の課題を抽出し、児童と保護者が課題解決
- (2) 多種多様な人間・自然との共生(暮らし)を学習
- (3) 絆のシンボル「絆の樹」植樹祭を通じ、多種多様な人間の共生を実施



2. 「かすがいKIZUNA」を通じて子どもを育成

- 【教育目標】人と自然の命を尊ぶ心を育成する
- (1) 自然と人の関わりを理解できる子どもを育てる
 - (2) 世の中の問題へ関心をもつ子どもを育てる
 - (3) 自主的に行動できる子どもを育てる



3. 「かすがいKIZUNA」2大事業

- (1) 教育カリキュラム「KIZUNAラーニング」
- 【教育目標】「自然の命を尊ぶ心」を育成
- 【特長】①体験と教科学習を通じた問題解決型教育
②eラーニングによる親子共同学習



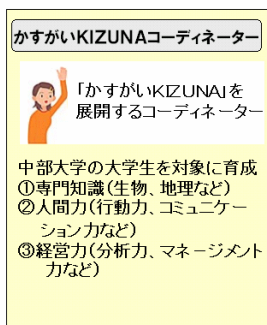
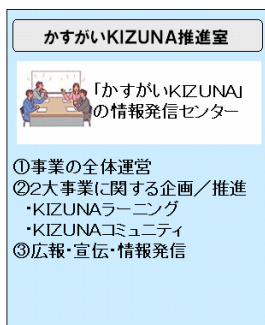
3. 「かすがいKIZUNA」2大事業

- (2) 共生イベント「KIZUNAコミュニティ」
- 【教育目標】「人の命を尊ぶ心」を育成
- 【特長】①人間の存在/共存を理解する共生教育
②多種多様な人とふれあうイベント開催



3. 「かすがいKIZUNA」事業基盤

- (1) 推進組織「かすがいKIZUNA推進室」の設立
- (2) 「かすがいKIZUNAコーディネーター」の育成



(3) 経験交流ミーティング提出資料

国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業

平成18年度採択地域の事業実績報告（抜粋）

地域名	愛知県春日井市	記入者	杉山 康彦
		所属	株式会社 日立製作所

1. 事業実施概要と全体的な評価

① 中期目標

本事業「絆再生プロジェクト『かすがいK I Z U N A』」では、多種多様な人間と自然が共生し合う春日井市において、「人と自然の命を尊ぶ心を育成」する。

■本事業では、最小のコミュニティを学区と捉え、児童教育を中心に学区の希少な動植物と人間の共生環境を築く。【人と自然の絆】

■自然と人間の共生環境を築く過程で、地域の多種多様な人の存在と課題を児童が学ぶ。さらに、多種多様な人々が共生しやすい社会を創造し、共生の証として、学区に「絆の樹」を植樹する。【人と人との絆】

② H19 年度事業の目的・目標

■事業の創設

絆再生プロジェクト「かすがいK I Z U N A」の2大事業を確立するため、ギフチョウエリアの拠点校として、東高森台小学校にて、本事業の有効性を検証する。

■事業の運営

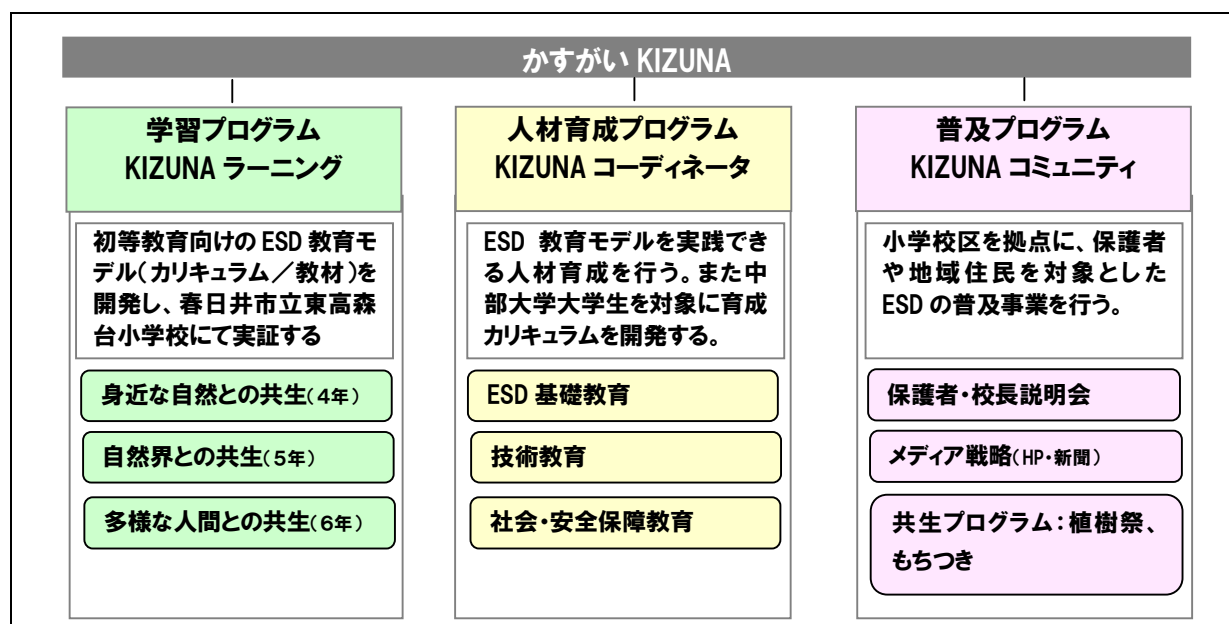
本事業を推進する「かすがいK I Z U N A 推進室」を設立し、中部大学に拠点を置く。

同推進室は、運営母体であるとともに、「情報発信センター」として、HPなどで情報を発信する。

■コーディネーターの育成

本事業の継続的運営を目的に、各学区に「かすがいK I Z U N A」を展開する「K I Z U N A コーディネーター」を育成する。2007年度は、中部大学の大学生を対象に、2名（3年生1名、4年生1名）を輩出する。

③H19 年度事業の全体像



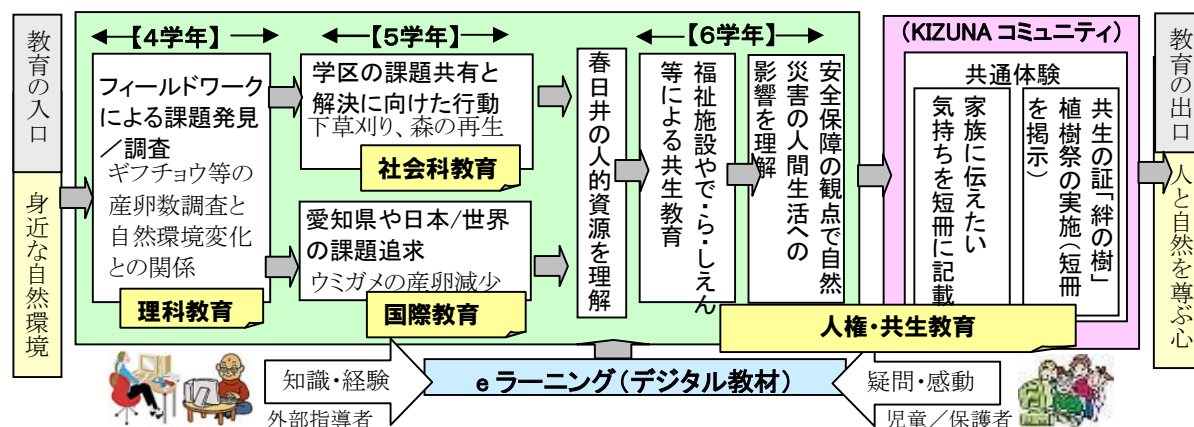
④H19 年事業全体としての成果と課題（全体的な評価）

No	区分	成果	課題	対策
1	KIZUNA ラーニング	①9割の教員が「社会性の育成や社会経験の蓄積に効果的」 ②「家族と自然保全／観察」する児童が 7月:4割→11月:8割	①教育目標の理解に教員間の温度差 ②「学力向上の効果がみえにくい」	①教員に対する研修会実施や指導書開発。 ②教材／カリキュラムの改良。
2	KIZUNA コミュニティ	①保護者向けイベントに延べ1000人参加。 ②100組の親子が「互いを思う気持ち」を短冊に記載。 ③9割の保護者が「親子の絆を考え直した」	①実行委員等の人脈や PTA 役員による集客が中心のため、参加者層に偏り。	①教育委員会等、市との連携。 ②PTA 広報などの活用。
3	KIZUNA コーディネータ	①8人が全プログラムを修了。 ②全員が、ESDに関する説明が可能。 ③延べ30回の初等教育向け教育活動を実施し、リーダー的資質が向上。	①応用生物学部の学生有志を対象。 ②自然保全／福祉関連の講義が中心。	①実施母体を中部大学へ移管し、大学教育(7学部横断カリキュラム)の一環でコーディネータの育成を進めることを検討中。
4	運用基盤	①福祉／国際理解に関する人材の増員。 ②中部 RCE 拠点との運用ノウハウや人的資源の共有。	①団体としての参加が得られにくい。 ②行政、企業との提携や共催実績がない。 ③資金の調達。	①中部大学に実施母体を移管。 (行政や企業との連携を推進、教育事業として、補助金等に申請)

2. 平成 19 年度主要事業の概要

● 「学習プログラム」KIZUNAラーニング

KIZUNAラーニングは、身近な自然を入り口として、「国際教育」や「共生教育」に発展させ、最終的には持続可能な社会の根幹をなす人と自然の命を尊ぶ心を育成する。「なぜだろう」という自然現象の観察から「社会のバランスの崩れ」という課題を見出し、解決に向けて「あらゆる生命体を支える社会構造の理解」と「課題解決の実践」に発展する。本報告書では、学区の課題共有から世界の課題追求を学習した5学年の事例を紹介する。



No	区分	内容		
1	プログラム名	自然界との共生	身近な自然との共生	多様な人間との共生
2	対象者	東高森台小学校4学年	東高森台小学校5学年	東高森台小学校6学年
3	達成目標	生物の命を思いやる心の育成	グローバルな視野で自然界／社会を大切に思う心の育成	人を思いやる心の育成
4	実施した内容	以下、5学年のプログラム「身近な自然との共生」を特記。 ■ 10時間のESD 学習カリキュラムを開発／授業を実践 ① 森の健康診断(10月12日) 中部大学応用生物学部を中心とした大学生(KIZUNAコーディネータ)が、森林の基礎的な健康状態を調査する手法を小学生向けにアレンジ。校区の里山で木の密度や土壌の状態を調査した。 ② 身近な自然災害(11月14日) 中部大学の大学生が東海豪雨の歴史や被害状況を伝えるとともに、調査結果を分析し、森の健康を維持するには人の利用が不可欠であることを学習した。 ③ 世界・日本の災害(2月19日) ユネスコ名古屋により、地球温暖化や砂漠化の現状、及び世界の人々の生活状況の違いなどを伝え、視野を広げる。 ④ 自然と人間の共生 伊勢湾のごみ処理場建設をめぐるケーススタディを行い、自然と人間が共生していくうえで必要な考え方などを理解する。		
5	プログラムのESDらしさ	■ 自然・社会・経済の全ての分野を学習できるカリキュラム ■ 「なぜだろう」という疑問を基点に、情報を多面的に収集し、解決策を導き出す授業構成		

6

プログラムの
成果

■ ESD 教育モデルの確立

①カリキュラム：10時間分の学習カリキュラムを確立・実践

※資料1：ESDUNAS2007 東高森台小学校を学校・実践内容

8学年目標 学習・生活態度で自覚を大げに育てる									
学習目標									
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標
学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標	学習目標

●「人材育成プログラム」KIZUNAコーディネータ

No	区分	内容
1	プログラム名	KIZUNAコーディネータ育成プログラム
2	対象者	中部大学大学生
3	達成目標	■KIZUNAコーディネータ育成カリキュラムを開発 ■3年生1名、4年生1名を対象にKIZUNAコーディネータを育成

4	実施した内容	④ ESD基礎教育 ESDの基本的な考え方や国連の施策、地域の自然や文化に関する講義を実施 ⑤ 技術教育 森の健康診断などの調査技術を習得 ⑥ 社会・安全保障教育 春日井市の社会制度や福祉事業を学習	
5	プログラムのESDらしさ	■ 春日井市少年自然の家やNPO(自然保全・福祉)と外部連携を進め、多面的な講義を実施。 ■ 知識や技術を習得し、自らが小学生に伝え効果を分析するPDCAサイクル型のプログラム	
6	プログラムの成果	■ 4年生2名、3年生2名、2年生8名がKIZUNAコーディネータ育成プログラムの全講義／実践に参加。一部の講義には、50名が聴講した。 ■ 東高森台小学校教員へのアンケート調査により、9%の教員が「学生の指導内容や教材の妥当性」に高評価を与えた。	
7	今後に向けた課題・改善点	■ 体制拡大に向け、実施母体を中部大学へ移管し、大学教育の一環でコーディネータの育成を進めることを検討中。 ■ コーディネータ育成カリキュラムの充実化(多様化社会や経済教育などの授業を実施)	

3. ESD 推進体制

(1) 推進室設立アプローチと構成メンバーの変遷

No	かすがいKIZUNA推進室		設立時(2007年7月)	新規参加(2008年2月)
1	とりまとめ	かすがいKIZUNA推進室長	(株)日立製作所、中部大学(学生サークル含)、春日井市立東高森台小学校(児童によるキッズESD含)、かすがいギフチョウのすむ里山づくりの会、春日井市少年自然の家、東高森台小学校PTA、賢庭造園道場、春日井市自然環境保全活動推進員、やろみやあエコみやあ美しい公園都市春日井 【オブザーバ】春日井市教育委員会、同環境政策課	心身障害者コロニー、春日井市内の福祉施設8か所、NPOで・ら・しえん、愛知県環境調査センター、名古屋ユネスコ協会 【オブザーバ】春日井市小学校校長会
2	KIZUNA	カリキュラム設計		
3	ラーニング	eラーニング運営		
4		授業設計		
5	KIZUNA	プログラムの企画		
6	コミュニティ	会場設計		
7	広報	広報／情報発信		
8	管理	事業評価		
9		事務会計		

(2) 推進室体制の評価(よかった点、失敗例、今後に向けた課題など)

よかった点	■ 実証校である東高森台小学校校長／教員と連携し、春日井市小学校校長会への定期的な報告を行った。 ■ 中部大学が事務局を務める中部 RCE 拠点のシンポジウムなどを通じ、相互の人的資源の活用／ノウハウの共有を行った。 ■ KIZUNAラーニングやKIZUNAコーディネータの講師としての関わりを通じ、設立当初の課題であった福祉や国際分野の団体との連携が拡大した。
失敗例	■ 個人としての参加が得られても、団体としての参加は未だ得られにくい。 ■ 春日井市の施策などとの提携が未整備 ■ 企業の参加実績がない。
今後に向けた課題	■ 本取組に参加するメリットの抽出 ■ 春日井市に対する提言(市制との連携) ■ 春日井市商工会議所や中部大学のOBに対する意識調査とアプローチ法の抽出

- (3) 本事業を通じて確立した ESD を実施・推進する体制(推進室のあり方、関係者との連携のあり方、財源の確保など)

①推進室のあり方

平成19年度は、有志が中心であったが、平成20年度は実施母体を中部大学へ移管し、大学教育の一環でESDを進めることを学内で検討している。

②関係者との連携のあり方

中部大学を実施母体とすることにより、課題である行政との連携、及び体制の拡大を実現し、実施基盤の強化を図る。

③財源の確保

中部大学の教育の一環として位置づけ、各種補助事業への申請を検討中。尚、平成19年度に開発した KIZUNA ラーニング「自然界との共生」に関しては、小学校教員が自ら指導にあたれるよう、平成20年度にデジタル指導書を作成し公開する。そのための経費については、財団法人松下教育研究財団の委託研究費の一部から捻出する(平成20年1月)。

1. KIZUNAラーニング

【教育目標】 子ども(と大人)の“人と自然の命を尊ぶ心”を育成する

- (1) 自然と人の関わりを理解できる子ども(大人)を育てる
- (2) 世の中の問題へ関心をもつ子ども(大人)を育てる
- (3) 自主的に行動できる子ども(大人)を育てる

授業実施体制

少人数班単位で調査・考察
班に1名学生TA
学生、市民、大学教員が講師
デジタル教材の作成・蓄積
インターネット活用



教材:『子どもの森の健康診断』

かすがいKIZUNAの教育目標

4年生:「生物の命を思いやる育成」
 5年生:「グローバルな視野で自然を大切に思う心の育成」
 6年生:「人を思いやる心の育成」
 通年:「命の大切さを理解し、人や自然と共存できる子どもの育成」

5年生の教材に求められる内容

- ・生物多様性
- ・人と自然のつながりの重要性

(個々の役割、人の活動も含めた自然の認識)

||

「森の健康診断」の内容

- ・対象地: 人工林(里山)
- ・森の公的機能
- ・生物多様性(林床植生)
- ・人が管理することの重要性

教材として最適

授業の構成

準備	・2006年度にニーズ調査実施 ・大人主体で実施されている「土岐川・庄内川森の健康診断」の手法を用い、子ども用にアレンジした教材を作成。
調査授業 200分間	・2007年10月12日、小学校から徒歩約30分、大谷山の人工林で実施 ・児童には、調査前に、調査方法についての説明と、森の健康状態の説明を、パワーポイントで行った。 ・2クラス44名を8班に分け、各班4～6名の児童、男女1名ずつのTAで構成。
まとめ授業 120分間	・2007年11月14日、結果を基にした授業展開。各班は、テーマに沿ってディスカッションし、画用紙にまとめ、発表した。 ・発表後は、発展学習として、パワーポイントで、里山の現状、東海豪雨の説明から、人と自然のつながりを学習。 ・復習として、授業に関するクイズをインターネット上で実施。 ・調査授業前とまとめ授業後に、意識変化確認のアンケートを実施。

マニュアル・教材作成

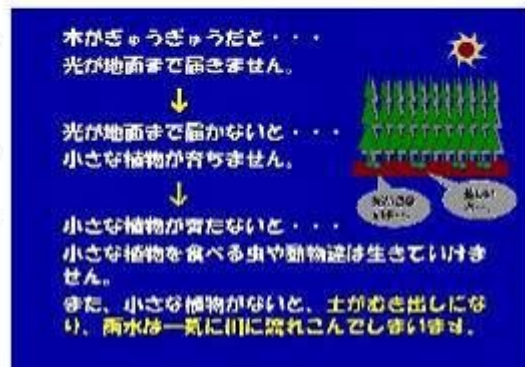
調査項目

- ・腐植層の深さ ・浸透能 ・木の混み具合
- ・林床の植物種数 ・中心木の胸高直径

変更点

- ・樹高はあらかじめ測定しておく。
- ・草本と木本の区別をつけない。
- ・低木も下層植生と区別しない。
- ・混み具合調査時の5.65m竿を4mロープで代用。
- ・浸透能測定時の300ccメスシリンダーをペットボトルで代用。

※マニュアルは、調査を時間内に終わらせるか、安全かつ理解できるかを吟味し、作成した。



▲森の健康状態の説明教材

考察：変更したにも関わらず、調査時間が超過してしまったため、あらかじめコドラートを張っておくなど、時間短縮策が必要。

授業実施(調査)

調査は、約1時間で実施した。児童たちは、マニュアルをもとにTAの指導を受けながら、各項目の調査を行った。

授業状況

- ・児童たちは、TAとの調査をととても楽しんでいた。
- ・浸透能調査では、はりきりすぎて、グチャグチャになる班も・・
- ・調査をスムーズに実施するためにも、TAの的確な指示が求められた。



▲調査風景1 (胸高直径の測定)

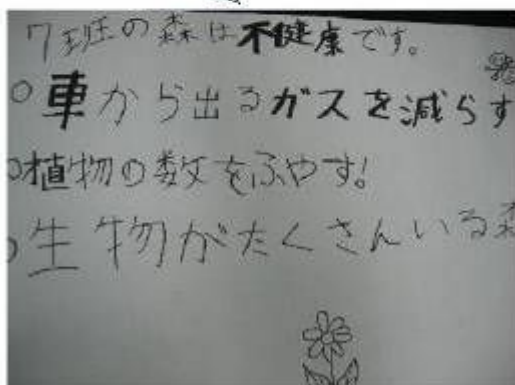


▲調査風景2(浸透能調査)

授業実施(まとめ)

テーマ

- ・自分達の調査地は健康か？
- ・健康にするにはどうすればよいか？
- ・健康な森とはどんな森か？



▲7班のまとめ

授業状況

- ・各班でのディスカッションでは、以外な答えも飛び出し、大いに盛り上がったが、時間があまりとれず残念であった。
- ・授業に関心の低い児童も、東海豪雨の説明では、感嘆の声を上げ、真剣に授業を聞いていた。



東海豪雨

- ・今から7年前の9月11日、愛知県名古屋市を中心とする東海地方にたくさんの雨が降りました。雨はいっせいに川からあふれ、町に流れ込みました。死者10名、重軽傷者115名、床上浸水22,894棟、体下浸水46,943棟、東海豪雨と呼ばれるこの災害は今でも人々の心に深い傷を残しています。



▲東海豪雨について

2. KIZUNAコミュニティ

春日井市少年自然の家にて
小学校のPTA年間行事の中で実施。

【趣旨】

“親と子・友達どうしの心のつながり”の確認。
“多様な命との共生なくしては地域社会は存続しえない”こ
との確認。

KIZUNAの活動紹介

【内容】

絆確認ゲーム、“将来の夢短冊”作成、
生物カードゲーム、ドングリゴマ作り



2. KIZUNAコミュニティ “絆の樹”植樹祭 12月13日(木)

東高森台小学校にて、KIZUNAの授業を受けた4～6年生全員とスタッフで作業。
後日、餅つき大会で皆が書いた**将来の夢短冊**を小学生・スタッフ・PTAとで絆の樹に巻きつけ
た。このための準備は、KIZUNAコーディネーターが専門家であるスタッフ指導の下実施。



趣旨: KIZUNAによる“自然との共生の大切さ”学習の思い出し
持続的に学びの内容を考えるシンボルの設置

樹種は、地域の山にある普通種。樹齢は児童たちとはほぼ同じ。
樹といっしょに成長しよう、30歳になるころには、樹は校舎を超える高さになるぞ！
ドングリをつける頃には、立派な木陰ができ、児童はそこで遊ぶだろう...
そんな樹種を選んだ。今と将来をつなぐ象徴でもある。

3. KIZUNAコーディネーターの育成

- 必要な専門知識についての大学生対象の事前講習会



- 担当授業実施における関連項目の専門性探求
- 教材作成過程での大学教員および小学校教員からの指導
- プレゼンテーション法の指導
- 会議での意見交換法
- 議事録作成技術や外部との連絡・交渉方法を知る
- PDCAサイクルの重要性、仕事を進めるコツ、などの学習

4. 効果／課題を踏まえた対策

効果／課題の抽出方法

■調査目的

かすがいKIZUNAに関する「教育的観点」「社会的観点」からの評価、及び課題を抽出し、改良につなげる。

■調査対象

- ①教員に対するアンケート調査(08年1月)
- ②児童に対するアンケート調査(07年7月、11月)
- ③保護者に対するヒアリング調査(07年7月、12月)
- ④大学生に対するヒアリング調査(08年2月予定)
- ⑤実行委員に対するヒアリング調査(08年1月)

4. 効果／課題を踏まえた対策

(1) 学習プログラム KIZUNAラーニング

効果

- 9割の教員が「社会性の育成や社会経験の蓄積に効果的」
- 「家族と自然保全／観察」する児童が7月:4割→11月:8割

課題

- 教育目標の理解に教員間の温度差
- 「学力向上の効果がみえにくい」

対策

- 教員に対する研修会実施や指導書開発。
- 教材／カリキュラムの改良。

4. 効果／課題を踏まえた対策

(2) 普及プログラム KIZUNAコミュニティ

効果

- 保護者向けイベントに延べ1000人参加。
- 100組の親子が「互いを思う気持ち」を短冊に記載。
- 9割の保護者が「親子の絆を考え直した」

課題

- 実行委員等の人脈やPTA役員による集客が中心のため、参加者層に偏り。

対策

- 教育委員会等、市との連携。
- PTA広報などの活用。

4. 効果／課題を踏まえた対策

(3) 人材育成プログラム **KIZUNAコーディネータ**

効果

- 8人が全プログラムを修了。
- 全員が、ESDに関する説明が可能。
- 延べ30回の初等教育向け教育活動を実施し、リーダー的資質が向上。

課題

- 応用生物学部の学生有志を対象。
- 自然保全／福祉関連の講義が中心。

対策

- 実施母体を中部大学へ移管し、大学教育(7学部横断カリキュラム)の一環でコーディネータの育成を進めることを検討中。

4. 効果／課題を踏まえた対策

(4) 運用基盤

効果

- 福祉／国際理解に関する人材の増員。
- 中部RCE拠点との運用ノウハウや人的資源の共有。

課題

- 団体としての参加が得られにくい。
- 行政、企業との提携や共催実績がない。
- 資金の調達。

対策

- 中部大学に実施母体を移管。
(行政や企業との連携を推進、教育事業として、補助金等に申請)

(4)KIZUNAラーニング関連資料

4学年 年間計画

年間計画		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
フェーズ	食物連鎖の理解 観察地点別の種類／個体数の違いから生態系を理解する。	生態系の構造の理解 食物連鎖と生態系の関係を理解する。					生態系の課題と解決策を理解 自然環境と人間の生活環境の接点を理解し、解決策を考える。			
授業名	生き物の見つけ方 講座	-	-	秋の生態観察	観察結果のまとめ	生態系の構造		春日井の自然保全	未来への提言	愛知県の生態
時数										
日時	7月30日	-	-	9月27日						3月12日
目的	基本的な観察手法を習得する。	-	-	秋に生息する生物を理解する。	生物の特徴を理解する。	生物の変化を理解する。		自然と人間の生活との関わりを理解する。	自らの生活と自然との関わりを理解する。	生態系における課題を理解する。
学習内容	・生物の観察の仕方 ・生物間の関係	-	-	・秋の生態観察 （個体・種類）	・秋の生態観察の結果 （個体・種類）をまとめ発表する。	・個体や種類が変化した理由を調査 ・調査結果を発表		・春日井における人間の生活環境の変化と生態系の課題を学習 ・自然保全に向けた取り組みを調査し発表	・自身が取り組んでいきたいことをまとめて発表 （ウミガメの産卵場所の喪失など） ・課題の要因を調査 ・調査結果を発表	
場所	校庭	-	-	学校とオートフィールド	教室	教室		教室	教室	教室
講師	少年自然の家：遠見	-	-	-	-	-		少年自然の家	-	愛知県環境調査センター
支援	中部六大学：4人	-	-	中部六大学：2人 自然観察員：2人	-	中部六大学：4人		-	-	-
教材	-	-	-	生態観察手法	観察結果のまとめカード	生態系の構造		春日井の自然保全		愛知県の生態（クイズスタディ）
その他	-	-	-	-	ハブコ/を使って子どもたちが疑問や質問を書き込み、講師などがインターネットを介して指導する。（日立・中部六大学が制作支援）					

かすがいKIZUNA授業実施報告

~KIZUNAラーニング~

授 業 名	小学 4 年理科
日 時	2007年7月30日(月)9:15~10:40
受 講 者	(東高森台小学校 4 学年)
目 的	四季の自然(植物・生き物)の変化
学習内容	これまで、学校側が 4 月に「あたたかくなって」6 月に「あつくなって」校内ビオトープ周辺の自然がどのように変化したかを観察していた。それを受け、真夏の 7 月 30 日出講日を利用し、「さらにあつくなって」自然がどのように変化したかを知るために、授業を行った。 ・雨天のため、前半は、コンピューター室で、講師(浅見)が下見したときに見つけた生物をスライドで紹介し、興味付けのための導入と観察方法を話した。 ・後半、雨が上がったので、フィールドで、前半の事業を参考に、各自観察を行い、記録をとった。
場 所	■東高森台小学校ビオトープ周辺
講 師	■浅見良平(かすがい KIZUNA)
支 援 者	■中部大上野講師はじめ学生 4 名
教 材	
評 価 点	これまでは教師の範囲内の指導で、学習指導要領にしたがって、実施していた単元を、講師との打ち合わせにより、この単元指導に不足している、「自然の捉え方」「自然の観察手法」を伝えることで、子どもたちがより深くこの単元を理解するとともに、教師も指導要領の掘り下げ方を理解する機会となった。
改 良 点	・学年当初から、教師との信頼関係の下に、授業を組み立てる必要がある。 ・今回は、2 時限分の中での授業であったが、まとめにさらに1時限取れば、より有効であった。
その他	今回初めて子供たちの現状(各人の個性、クラスや学年の雰囲気)をつかんだので、これを次回以降に反映させたい。

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAラーニング～

授 業 名	小学 4 年理科
日 時	2007年9月27日(木)9:15～10:40
受 講 者	(東高森台小学校 4 学年)
目 的	四季の自然(植物・生き物)の変化
学習内容	前回 7 月 30 日の真夏の「あつくなって」の自然の様子から 9 月下旬の「すずしくなって」生き物たちはどのように変化したかを知るための授業を行った。また、その中に学習指導要領を理解しつつ、「かすがい KIZUNA」のねらいである、人と自然、人と人とのつながり、命の大切さについて考える場面を挿入した。 ・ 前半は、音楽室で 4 月、6 月、7 月のこれまでの観察内容に触れ、7 月に飛躍的に多くの生き物を見つけた根拠として、子供たちの観察眼が養われた点を強調し、さらに、生き物たちの一生のサイクルについて解説した。 ・ 後半、フィールドで、全体を率いて、校内の季節変化を感じる自然の変化のポイントをめぐり解説し、その後、各自観察を行い記録をとった。
場 所	■東高森台小学校ビオトープ周辺＋運動場周辺
講 師	■浅見良平(かすがい KIZUNA)
支 援 者	無し
教 材	
評 価 点	なぜ、夏に多くの生物を見つけられたかについて、生き物の一生のサイクルについて解説した。子供たちの感覚(教員も含む)では、「セミは成虫になってほんの 1～2 週間の命であってはかない一生」と捉えるが、「アブラゼミであれば卵で地上 1 年、幼虫で地中 5 年の生活があり、他の昆虫と比べてたいへん長い幼虫時期を過ごすこと」に改めて目をむけられた。また、「アゲハチョウは 1 年に 4 世代も繰り返す 1 世代(一生)は非常に短いこと」「同じアゲハであってもギフチョウは 1 世代が 1 年あること」などを解説した後、我々の一生を 80 年として、どの世代も一生の中で 3 世代が生きている時期があるのが、人間の一生の特性であること」「どの生物も一生を終えるが、世代は繰り返され、命は繋がっていること」を話し感想を聞いた。多くの子どもは、生き物の一生の捉えかたに変化を生じたようで、「人間でよかった」との反応があった。
改 良 点	・今回は、2 時限分の授業であり、まとめはにさらに 1 時限取り、教師にゆだねた。この一時間も教員中心で展開してもらえればよいが、共有できるとさらによい。
その他	今回初めて子供たちの現状(各人の個性、クラスや学年の雰囲気)をつかんだので、これを次回以降に反映させたい。

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAラーニング～

授 業 名	小学 4 年理科
日 時	2008年1月15日(火)9:00～10:45
受 講 者	(東高森台小学校 4 学年)
目 的	四季の自然(植物・生き物)の変化
学習内容	第1回目7月30日の真夏の「あつくなって」、第2回目9月下旬の「すずしくなって」に続き、真冬の1月「寒くなって」生き物たちはどのように変化したかを知るための授業を行った。 ・ 前半は、コンピューター室でビデオプロジェクターで、下見しておいた現在のビオトープ周辺の様子と見つかった生き物のスライドを見せ、冬の生き物たちに触れるための動機付けを行った。また、切手の中の生物を表示し、野生動物とそうでないものの見分けを行い、ゴキブリからシロナガスクジラまで野生動物の再認識を行うと同時に、我々の身近な切手にそれらが描かれていることで、野生動物との親近感を演出した。さらに、補助資料として、暦の24節季、72候の表を配布し、昔の人の季節感にも触れた。 ・ 後半は前半の野生動物の認識を元に、冬越ししている野生動物を一定時間内に班ごとで見つけるゲーム形式で授業を進行した。子ども達は、講師が下見をした時よりもはるかに多くの生き物を探し出し、寒い中様々な形で冬越しをしている生き物たちに直接的に触れることができた。子どもたちの生き物探しのまとめとして「校庭や校舎などの建物の影など、我々の生活している同じ場所に、多くの野生動物が生きている」ことを強調して伝えた。
場 所	■東高森台小学校ビオトープ周辺＋運動場周辺
講 師	■浅見良平(かすがい KIZUNA)
支 援 者	無し
教 材	四季の自然[植物・生き物]の変化 P52 参照
評 価 点	子どもたちの発見・・・越冬中のアカガエルの成体(♀)・・・ビオトープに生まれるアカガエルの卵の主はすぐそばで越冬していることが分かった。・・・クビキリギスの成虫の発見・・・多くが卵で越冬するキリギリスやバッタの仲間の中で成虫で冬をこすクビキリギスを見つけ、図鑑の記載事項で知ることとは違う、自らの体験で自然の不思議さを学んだ。 理科授業の中では、季節の変化と自然の変化を知ることが目的であるが、このような展開で、本来の目的は全うしながらも、観察眼を養い、新たな気づきから自然の不思議さを学ぶことができたと思われる。
改 良 点	教師にサポートしてもらいながらの授業であったが、これまで行ってきた展開を次年度からは教員だけで展開していただけるのが一番よいと考える。外部講師は、求められる学年で、新たな授業を開発するか、求められる他の学校でそこにあった授業を展開し、教員に引き継ぐべきと考える。

浅見良平（かすがい KIZUNA）

前は、九月の下旬「すずしくなっ」の観察をしまし。夏に比べればすずしくなっていまし、が、ビオトープや校庭の様子はいり夏と変わらないうにも見えまし。でも、みなさんのするどくなっ観察の力でよく観察すると、夏との違いが見つかりましね。秋を見つる観察でし。あれからじょじょに秋が深まり、だんだん寒くなり、樹木の葉が色づき、落葉し、秋から冬の景色に変わってきました。そして4ヶ月近く過ぎまし。

さて、1月15日、今日、暦（こよみ）の上では、「小寒」、一年で一番寒い時期をむかえようとしていまし。でも春のはじまりの立春〔2月4日〕までもう少し、生き物たちも春を待ってきびしい冬をのりきります。

観察のポイント

- 1 前の資料、生き物の一生の中にでてくる昆虫たちは、どんな形で冬をこしまし
か？ 成虫？ 卵？ 幼虫？ さなぎ？
- 2 日なたの風のあたらない場所
- 3 物のかげ
- 4 木や石の下
- 5 落ち葉や枯れ草の下

ゆっくり、よく観察してみよう！

もう一つ！

植物も生き物です！葉を落とした樹木や草もちゃんと春を迎える準備をしましに気がつきたかな？

樹木の枝の先に注目！

地面の草はどんな形？

みなさんが観察したように、私たちのすぐ近くには、多くの野生生物がすんでいまし。それも校舎の周りや校庭、ビオトープなどみなさんの生活する場所を野生動物も使っていまし。わたしたちは、ふだん気にしましませんが、多くの野生生物といっしょに生きていまし。

四季の自然〔植物・生き物〕の変化（2008・1・15）

四季の自然
植物・生き物の変化
寒くなると

1



前回のあらまし

2





3





4





5





6





7





15





16





17





18





19





20





21



かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAラーニング～

授 業 名	愛知県の生態～生態系のまとめ～
日 時	2008年3月12日(火)13:25～15:00
受 講 者	(東高森台小学校 4 学年)
目 的	四季の自然(植物・生き物)の変化は地球温暖化によって異変を起こしていることを理解する
学習内容	四季の自然を理解した児童に、自然と人間との共存、及び環境の悪化が生態系に異変をもたらしていることを理解させる。 地球温暖化を防止する工夫を理解させる。
場 所	■コンピュータ室
講 師	■愛知県環境調査センター 林
支 援 者	(株)日立製作所 渡辺
教 材	■PPT(愛知県環境調査センター管理)
評 価 点	二酸化炭素の測定器を用い、実際に葉が二酸化炭素を吸収している様子を理解させた。人間が二酸化炭素を排出していることから、人と自然との共存について理解を示すことができた。 セミの分布が変化している様子を地図や音声を用いるなど、座学ながら視覚や聴覚を活かして理解することができた。 5年生のギフチョウの学習にうまくつなげることができた。
改 良 点	二酸化炭素などは未履修の分野。語句や表現に改良が必要。
その他	
関連画像	

5学年 年間計画

年間計画										
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
フェーズ	自然界のつながりを理解 自然と生物のバランスに気づき、自然界の構造を理解する。		里山の意義／課題を理解 生物や人間の視点に気づき、現在の春日井市における里山の課題を理解する。				日本・世界の環境問題を理解 自然と人間との健全な関わり方(共生)について理解する。			
授業名	チヨウのの違い	チヨウの生息調査	田んぼの生態系	森の健康診断		里山の意義と課題		環境保全活動	世界の環境問題	
時数			2007/9/12	2007/10/12	2007/11/14	2007/11/14	2007/11/14		2月19日	
日時										
目的			身近な生物の生態系を理解する。	森の役割を理解する。	自然と人間との関係を理解する。	過去の歴史(東海豪雨など)の理解 生物／人間に与える森の影響	環境保全活動の社会的意義を理解する。	森林伐採による砂漠化などの世界の環境問題 それらの原因を調査		
学習内容		自宅周辺のチヨウの生息調査を行う。	・田んぼにおける生き物調査 ・上記から分かったことを発表	・森を「イキノク」、多様な生物を確認 ・森の役割を理解(森の健康診断)。	・調査結果をまとめる(表・グラフ) ・調査結果を発表する ・春日井の里山の状態を知る。	・過去の歴史(東海豪雨など)の理解 ・生物／人間に与える森の影響	・環境保全活動のコースデザイン ・自身が取り組んで行きたいことをまとめる	・森林伐採による砂漠化などの世界の環境問題 それらの原因を調査		
場所			田んぼ	大谷山	教室	教室	教室	教室	教室	
講師			春日井市自然観察員	中部大学	中部大学	中部大学	中部大学		ユネスコ協会	
支援		中部大学生:4人	自然観察員:2人 中部大学:2人	自然観察員:2人 中部大学:2人	中部大学:2人	中部大学:2人				
教材			田んぼの生態系	森の健康診断手順 調査結果記録シート	FLASH EXCEL	FLASH	里山の意義と課題	環境保全活動	世界の環境問題	
その他										
パソコンを使って子どもたちが疑問や質問を書き込み、講師などがインターネットを介して指導する。(日立・中部大学が制作支援)										

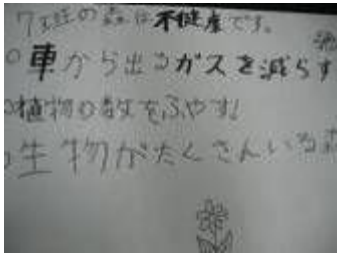
かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAラーニング～

授 業 名	大谷山森の健康診断(調査)
日 時	2007 年 10 月 12 日
受 講 者	■東高森台小学校 5 学年
目 的	■身近にある大谷山に対して健康診断を行い、その結果よって森に人が関わることの重要性、人を含めた生物の多様性を理解させる。
学習内容	■調査方法の説明をPPTで行った後、山に入り、土壌の厚さ、水の浸透性、植物数、木の混み具合について調べ、森の健康診断を行った。
場 所	■東高森台小学校→大谷山
講 師	■関山洋 中部大学応用生物学部環境生物科学科 4 年生
支 援 者	■15 名 内訳(高橋、渡辺、上野、他中部大学環境生物科学科学生 12 名)
教 材	教材名:「大谷山森の健康診断」(形式:PPT)P58～P61 関連資料名:「事前アンケート」(形式:Word)P62 「記録用紙」(形式:Excel)P63 「調査マニュアル」(形式:Word)P64 「密度管理表」(形式:Word)P65
評 価 点	調査をスムーズに行い、更に子ども達とのコミュニケーションをはかりやすくするために、2 クラスを 8 班に分け、各班に男女 1 名ずつのアシスタントを付けた。また、学生アシスタントについては、事前に調査概要についての学習を必須とした。結果として、調査は順調に進み、子どもたちへの細かな指導もすることができたと思われる。
改 良 点	調査方法などの授業は、出来れば前日までに済ませ、当日は調査のみで終わったほうが、集中力が切れずに良いと思う。
その他	授業時間内に移動時間も含まれるため、調査時間が少なく、もう少しゆとりを持って調査を行いたかった。 大人では、何の問題もない調査でも、子どもは、思わぬところで時間を割いてしまう。ある程度は、アシスタントの具体的な指示が必要であると感じた。(調査枠を張るときなどは「～君もう少し右に動いて。」のような具体的な指示が必要。)
関連画像	■ 当日の授業風景など  写真1. 薄暗い森の中での調査  写真2. 木の直径の調査 (関山洋 作成)

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAラーニング～

授 業 名	大谷山森の健康診断(まとめ授業)
日 時	2007 年 11 月 14 日
受 講 者	■東高森台小学校 5 学年
目 的	■身近にある大谷山に対して健康診断を行い、その結果よって森に人が関わることの重要性、人を含めた生物の多様性を理解させる。
学習内容	■ 10 月 12 日に行った、森の健康診断の調査結果を基に、自分の班の調査場所が健康なのか、どうかを各班で話し合い、全員の前で発表する。その後、PPT にて、森が不健康なら、どのような現象が起こり、人にどのような影響が生じるのかを教えた。 ■ 過去の地域の歴史(東海豪雨)を振り返り、里山の意義や課題を教えた。
場 所	■東高森台小学校 理科室
講 師	■関山洋 中部大学応用生物学部環境生物科学科 4 年生
支 援 者	■8 名 内訳(渡辺、上野、他中部大学環境生物科学科学生 6 名)
教 材	教材名:「大谷山の森の健康診断 まとめ」(形式:PPT)P66 関連教材:「密度管理表」(形式:Word) 「記録用紙」(形式:Excel)
評 価 点	こちらが、一方的に授業を行うだけでなく、各班で結果を話し合わせ、発表させることで、一人一人が、森と人との関わりについて考えるきっかけになった。
改 良 点	調査内容を忘れている生徒が多かったので、調査後、少なくとも一週間以内で行うべきだった。 各班の話し合い、発表それぞれについて、もっと時間をもうけるべきだった。子ども達は積極的で、良い意見がもっと出る可能性が十分あったのに、もったいなかった。
その他	前回のよう、各班に一人アシスタントをつけ、話し合いの手助けをした。他の授業でも出会う機会があるため、子ども達とある程度の信頼関係を築いているアシスタントもあり、そのような信頼関係が築けている班では、調査や、話し合いの進行具合に違いが出ているように感じた。
関連画像	■ 当日の授業風景など  写真1. PPTでの授業  写真2. 班のまとめ (関山洋 作成)

＜調べかた ①土の硬さ＞

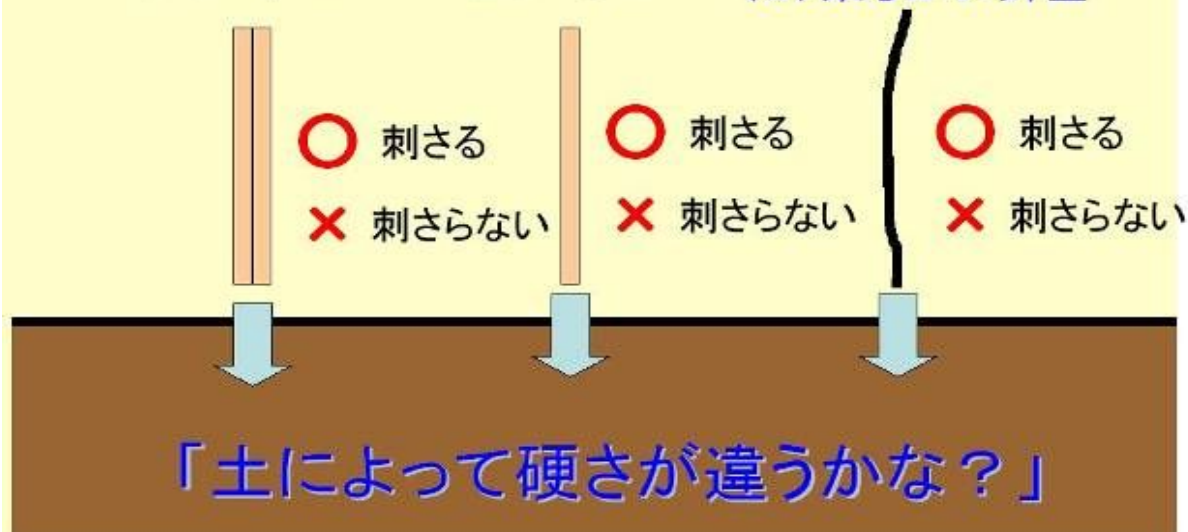
道具：わりばし，柔らかい針金

コツ：あまり力を入れないで土に刺す

(A) 2本で

(B) 1本で

(C) 柔らかい針金



＜調べかた ②水の浸み込みやすさ＞

道具：缶詰，ハンマー，木片，一定量の水，時計

コツ：掛け声かけて！

手順1) 缶詰を土に半分うめる

手順2) 「せーの！」

で水を勢いよく流し込む

手順3) 水が見えなくなったら「ストップ！！」

と叫び，何秒かかったか記録する



＜調べかた ③土の採取＞

道具：缶詰，ハンマー，木片，シャベル
 コツ：何も逃がさないで袋の口を閉める！

- 手順1) 缶詰をすっぽり埋める
 手順2) 缶詰ごと土を取り出す
 手順3) 場所名を書いたビニール袋に入れる



＜調べかた ③‘土の中の生き物’＞

道具：採取した土，バット，ピンセット，虫眼鏡
 コツ：形で分けて数を数える

- (A) ミミズの仲間
 (B) 硬い背中を持つ仲間（甲虫）
 (C) クモの仲間
 (D) ダンゴムシの仲間
 (E) ダニの仲間



＜調べかた ④土のにおい＞

道具：シャベル

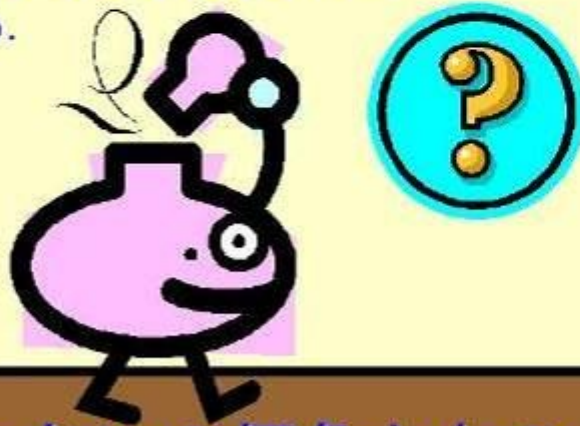
コツ：におい目をつぶって鼻に集中する！

表面の土を少し手のひらにとる。

水で少しだけ湿らせて、指でこねながら、においをかぐ。

「○○のにおい」に例えて表現してみる。

「色」も表現してみる。



「何のにおい？何色かな？」

＜調べかた ⑤生えている植物＞

道具：採取した土

コツ：形の違うもので分ける

ビニール袋の中の土に混ざっている植物を数える

同じものと思えるものを集めて数える



「土によって、生えている種類数は違う？」

土の調査のまとめ方

	運動場	ビオトープ	畑
①硬さ(硬/柔)	硬／柔		
②水の浸み込みやすさ	遅／早		
③におい	あり／なし		
④色	おうど色		
⑤動物の種類数	2		
⑥植物の種類数	1		

たくさんの生き物にとって、
住み心地のいい土壌とはどんな環境？

事前アンケート

森の健康診断事前アンケート！／当日の持ち物チェック表

1. 東高森台小学校の近くにある山の名前を知っていますか？

はい・いいえ ...その名前は？()

※たくさん書いてもいーよ

2. 自然にある木や草の名前を知っていますか？

はい・いいえ ...その名前は？()

※たくさん書いてもいーよ

3. あなたの思う健康な森とは、どんな森ですか？

()

持ち物チェック表

持ち物	チェック
筆記用具	
長袖のシャツ	
水筒	
雨具(カッパや傘など)	

記録用紙

～記 録 用 紙～

年 組 班 名前

地点名

ふしよくそう 腐植層	cm
ひ ふ くり つ 被覆率	全部 半分 4分の1
植物数	種
ちよつけい 木の直径	cm

←○をつけてね。

しみこみ	
一回目	秒
二回目	秒
三回目	秒

円内にある木の本数	本
1ha(ヘクタール)にある木の本数	本

↑円内にある木の本数に200をかけると出るよ！！

じょうそうじゅこう 上層樹高	m
-------------------	---

↑木の高さのことだよ！

Sr	
----	--

↑図1を^{さんこう}参考にしてね！

近くのお兄さんや、お姉さんに聞いてね！！

思ったこと

調査マニュアル

けんこうしんだんちょうさ
森の健康診断調査マニュアル：小学5年生バージョン

目的：木の混み具合や、土の状態から森が健康かどうかを調べるよ！

①調査わくを張る

落ちていた枝を使い、5メートルごとに印をつけた20メートル
 m^2 (平方メートル) の調査わくを張る。

5メートル

5メートル

②腐植層の調査

スコップを使い、調査わくの内側に腐植層（黒いふかふかの土）が何センチあるのかを調べる。

③緑のダム調査（森の土がどれだけ水を吸い込む力があるのかをみます。）

調査わくの内側に太いパイプを打ち込み、そのパイプの中に水を入れて、ストップウォッチでしみこむ時間を計る。

④草と低木の調査

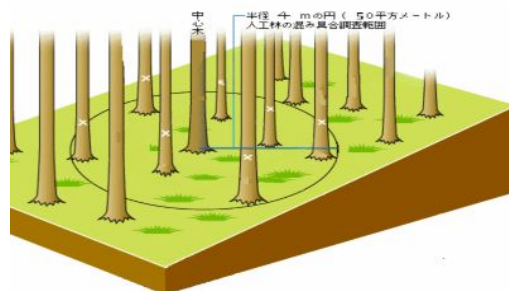
④-①調査わくの内側に、草と低木がどれくらいおおっているか見てみる。（被覆率と言うよ！）

④-②調査わくの内側の全ての種類の草と低木の葉をちぎり、白いシートの上に並べて種類数を数える。

⑤混み具合調査

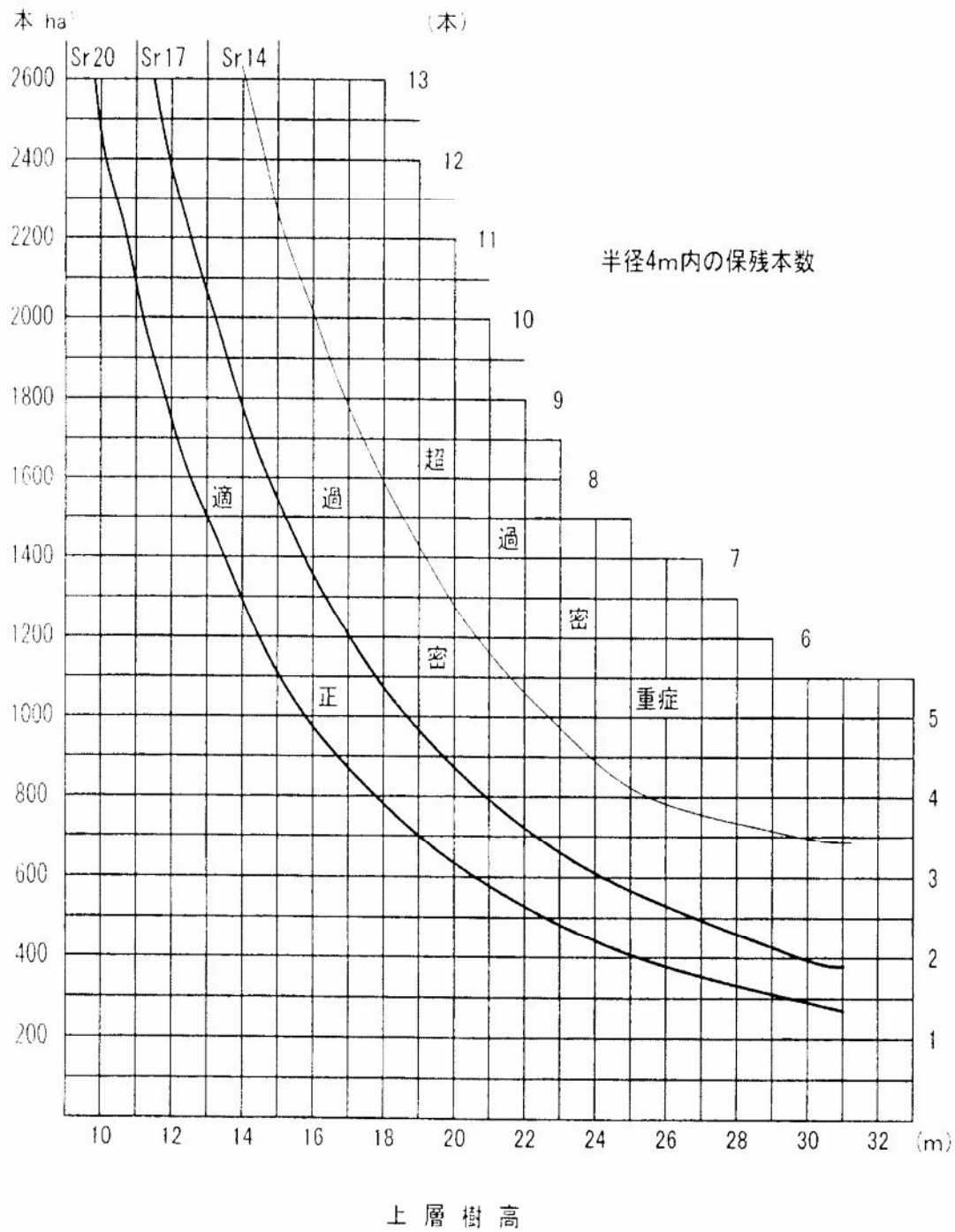
⑤-①周りを見渡し、森の中なかで平均的な太さで、まっすぐで傷や病気の少ない木を一本選び、テープを巻きつけ直径をはかる。

⑤-②テープを巻きつけた木を中心に、
 4メートルのロープで円を作り、円の
 内側に入った木を数える。数えた木にはキ
 ョークでしるしをつける。



⑤-③あらかじめスタッフが測定した樹高（木の高さ）のデータと⑤-②のデータから、図1を使って混み具合（ Sr ）を学習する。

密度管理表



木がぎゅうぎゅうだと・・・
光が地面まで届きません。

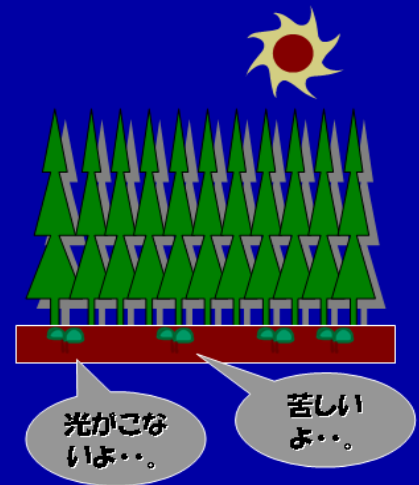


光が地面まで届かないと・・・
小さな植物が育ちません。



小さな植物が育たないと・・・
小さな植物を食べる虫や動物達は生きていきません。

また、小さな植物がないと、**土がむき出しになり、雨水は一気に川に流れこんでしまいます。**



東海豪雨

- ・ 今から7年前の9月11日、愛知県名古屋市を中心とする東海地方にたくさんの雨が降りました。雨はいっきに川からあふれ、町に流れ込みました。**死者10名、重軽傷者115名、床上浸水22,894棟、床下浸水46,943棟**、**東海豪雨**と呼ばれるこの災害は今でも人々の心に深い傷を残しています。



写真: 内閣府より転記
http://www.bousai.go.jp/oshirase/h13/130126chubo/shiryo3_3.html

かすがいKIZUNA授業実施報告

~KIZUNAラーニング~

授 業 名	カンボジアの水上村から水問題を考える
日 時	2007年2月19日(火)9:00~10:30
受 講 者	東高森台小学校5学年
目 的	カンボジア、トンレサップ湖に暮らすチョンクニア村の水上生活について知り、湖水の水を使って生活をする人々が抱える問題点を知る。世界が抱える水問題について理解を深め、自分たちが使っている水が清潔で安全な水であることを知り、大切な資源であることを理解する。 また、カンボジアが抱える環境問題だけでなく、教育問題についても触れ、世界には学校に行きたくても行けない子どもたちがいることや、文字の読み書きができない大人もいることを知り、環境を守るために、最低限必要なことが教育を受けることであることも理解する。 環境問題は日本だけでなく、世界にも関わることであり、これからは、広い視野をもって環境問題について考えていけるようにする。
学習内容	・ 国あてクイズ ・ カンボジアの寺子屋で学ぶ子どもたち ・ カンボジアの水上生活が抱える課題(環境の悪化) ・ 教育の必要性(ユネスコの活動)
場 所	東高森台小学校家庭科室
講 師	名古屋ユネスコ協会安達、近藤、田川、谷内尾
教 材	ユネスコの管理にて写真は記載せず。 ・ユネスコの資料(児童の人数分) ・ビデオ(寺子屋運動カンボジア編) ・カンボジアの写真のデータ ・カンボジアを紹介するグッズ
評 価 点	海外の実例を具体的に直視し、児童にとって衝撃的な印象を与えた。社会科の単元(琵琶湖の汚染問題)と結びつけ、身近な問題として捉えることができた。
改 良 点	識字など、海外の実情を理解する上で、基本となる知識が不足しており、内容に見直す点が多かった。地理や歴史など基本的な知識を補う必要がある。
その他	講師と教員の連携が必要。水のきれいな度合いは「色」ではない、ということを教員が強調した途端、子どもの思考回路は琵琶湖の履修内容に移った。
関連画像	

6学年 年間計画

年間計画									
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
フェーズ	多様性を理解 自然観察を通して、多様性を理解する。		春日井市の住民特性を理解 高齢者や障害者との交流を通して、その特性を理解する。		高齢者／障害者等に配慮したイベント企画 住民特性を考慮した交流イベントを企画する。		共生社会の啓蒙 イベントを開催し、人と人と自然の共生を啓蒙する。		
授業名	土壌調査		見学オリエンテーション 1	福祉施設見学 2	住民特性の理解 1	共生の方法を考える	共生社会へのチャレンジ	共生社会を考える	未来への誓言
時数			1	2	1				
日時	7月4日		9月7日	9月8日	10月22日				
目的	種の多様性を理解		福祉に関する基礎知識を定着	住民の多様性を理解	春日井市の住民特性を理解	様々な住民との共生方法を理解	共生社会の実現に向けた工夫を理解	共生社会を創造する	自分の提案を分かりやすくまとめる
授業内容	・土壌調査		・福祉施設訪問前の事前知識を習得する	・ココニー／老人福祉施設(4か所)を訪問	施設見学の感想をまとめる	・多様な住民を集めたイベントの企画をたてる。	・イベントを実施 ・感想を発表	・多様な住民と共生できる社会の実現のために、できることをまとめる。	・共生社会の実現に向けて取り組みたい内容を発表する。
場所	校庭	-	教室	ココニー福祉施設	教室	教室	教室	教室	住民が集まりやすい施設
講師	中部大学：上野講師	-	で・ら・しえん	で・ら・しえん	で・ら・しえん社会福祉協議会	賢産造園道場	-	で・ら・しえん	-
支援	中部大学：8人	-	中部大学：4人	中部大学：4人	中部大学：4人	中部大学：4人	中部大学：4人	-	-
教材	土の秘密を探ろう		福祉プログラム	福祉プログラム	春日井の住民特性				
			紙資料	紙資料					
その他	-	-			パソコンを使って子どもたちが疑問や質問を書き込み、講師などがインターネットを介して指導する。 (日立・中部大学が操作支援)				

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAラーニング～

授 業 名	福祉プログラム(6年生)
日 時	2007年9月7日(金)10:40～12:05
受 講 者	東高森台小学校6学年
目 的	福祉についての概念と、訪問する福祉施設の概要を学び、訪問のための注意点と目標を確認する。
学習内容	・福祉ってな～に？(誰もが幸せに生きる権利を持っていることの確認) ・福祉施設について(いろんな人たちが、いろんな事情で、いろんなところで生きていることを知る) ・訪問する施設の概要の理解 ・訪問時の注意事項と目標の確認 ・アイスブレイクゲーム「みんな違って素敵だね」
場 所	東高森台小学校 音楽室
講 師	可児由香(特定非営利活動法人で・ら・しえん代表)
支 援 者	教員2名
教 材	「福祉プログラムレジュメ」(形式:1)P72 「施設を訪問する前に」(形式:2)P73 「目標シート」(形式:3)P74 「訪問施設について」(形式:4)P75
評 価 点	・アイスブレイクゲームにより、「みんな(自分自身を含めて)違っていいのだ」ということを確認することができ、訪問する施設で出会う多様な人々を受け入れる心の準備ができた。 ・福祉は特別なことではなくて、誰もが幸せに求める権利を持っているのだということが確認できたことで、施設訪問に対しての期待が高まった。
改 良 点	今回は、訪問施設の概要を講師が説明してしまったが、子どもたち自身が調べるようにした方が、より理解や関心が深まったのではないかと思う。 また、他者を受け入れることの前に、自分自身を受け入れるためのプログラムが必要であることを実感した。
その他	集中力を増すために、急ぎょ取り入れたアイスブレイクゲームは、簡単な指示で絵を描くというもので、細かな指示ではないので、子ども達を書く絵はそれぞれの感性に委ねられ、完成した絵もそれぞれ異なる。「正解」を求めようとしていた子ども達は、始めは戸惑うが、「違っていい」ということがわかると安心し、「私は他の人と違うぞ！と思う人は自慢して」というと、誇らしげに絵を見せてくれた。 子ども達が、決められた枠の中におさまらなければならないというプレッシャーを感じていることがよくわかった。立ち会っていた教員が、子どもたちの違いに驚いていたことが印象的であった。

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAラーニング～

授 業 名	福祉プログラム(6年生) 福祉施設について
日 時	2007年9月13日(水) 13:00～15:00
受 講 者	東高森台小学校6学年、大学生7名
目 的	福祉施設で暮らしている高齢者やしょうがいのある人に出会い、暮らしの場を見学する。
学習内容	4つのグループに分かれて、福祉施設を訪問し、福祉施設がどんなところであるのかを理解し、そこで暮らしている人(高齢者、障害者)と交流をする。
場 所	あさひが丘(特別養護老人ホーム)、夢の家(身体障害者療護施設)、養和荘(知的障害者入所更正施設)、春日苑(身体障害者療護施設)
講 師	施設職員、可児由香(特定非営利活動法人で・ら・しえん代表)
支 援 者	大学生7人、KIZUNAスタッフ1名、教員3名
教 材	「目標シート」(形式:3)P74 「訪問施設について」(形式:4)P75
評 価 点	実際に施設を訪問することで、それぞれの五感を通じて知り得たことは、強烈な印象となつて、子ども達の心に残った。かなりのショックを受けた子どももいたが、現実を知ることから、関心や理解を深めるのであって、そのきっかけとしては十分な経験となった。 重い障害のため話すことができず、うめき声を出していた人の気持ちをわかろうと声に耳を傾け、気持ちを想像したり、身体の障害がある人が使いやすいように工夫された道具や設備を発見し、入浴用リフトの体験をするなど、積極的に取り組んだ。
改 良 点	準備が遅れ、協力施設との日程調整に困難をきたし、施設側の負担を増やしてしまった。もっと余裕をもって計画をすべきだったと反省している。また、協力施設に対してのフィードバックができなかったので、今後このプログラムを継続していくためにも、成果報告をすべきである。
その他	諸都合により、訪問時間が1時間と短かったが、訪問時の目標を少なく、実現可能なものに設定したことで、達成感につなげることができた。アシスタントの大学生が同行したことにより、緊張感が和らぎ、集中力を継続することができた。 また、福祉施設が、想像以上に協力的であった。

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAラーニング～

授 業 名	福祉プログラム(6年生) 福祉施設について
日 時	2007年10月22日(月)13:45～15:00
受 講 者	東高森台小学校6学年、大学生7名
目 的	福祉施設訪問の経験を共有するためのまとめ
学習内容	訪問した施設別に4つのグループに分かれて、発見したことや感じたことなどを話し合い、経験や感想を共有する。
場 所	東高森台小学校 体育館
講 師	可児由香(特定非営利活動法人で・ら・しえん代表)
支 援 者	大学生6人、KIZUNAスタッフ1名、教員2名
教 材	「発見したことシート」(形式:5)P76 「感じたことシート」(形式:6)P76
評 価 点	訪問直後に、それぞれ感想文を書いてもらっていたが、経験したことをグループごとに確認することで、経験を共有することができた。
改 良 点	訪問から時間がたってしまったため、注意が散漫になってしまった子どももいた。グループごとに書き出したシートを使って、全体的なまとめができなかったことが、大きな反省点である。
その他	言葉や文字にして発表することができるようになるまでには、もっと丁寧なサポートが必要だが、叶わず残念であった。 しかし、担任からは、見学の後、子どもたちが差別的なことばで友達を罵ったりすることがなくなり、人の話に耳を傾ける姿勢が見受けられるようになったと聞き、子どもたちがそれぞれに、多様な人びとの存在を受け入れ、理解しようとする心が芽生えたことが、今回のプログラムの成果であることを実感した。

「福祉プログラムレジュメ」(形式:1)

かすがいKIZUNA
福祉①ー2007.9.7

1. 自己紹介をします

可児由香（かにゆか）です。

中 郎大学で事務の仕事をしています。

ボランティアで、しょうがいのある人のことを応援する活動をしています。

かすがいKIZUNAというグループに入って、東 高森台 小学校のみなさんと、いっしょに勉強をすることになりました。よろしくお願いします。

2. これから何がはじまるの？

新しいことにチャレンジ！「福祉施設」訪問をします。

3. 「福祉」ってな～に？

4. みんなに知ってほしいことがあります。

いろんな人が、いろんなところで生きています。
それぞれの事情があるのです。

「施設を訪問する前に」(形式:2)

かすがいKIZUNA
福祉①-2007.9.7

<<施設を訪問する前に>>

1.「福祉施設」は「家」です。

「福祉施設」と呼ばれているところを見学します。
みなさんが見学をさせてもらう「福祉施設」は、いろんな理由によって自分の家で暮らすことができない人たちが、集まって暮らしている共同の大きな「家」です。

みなさんも、知らない人たちに、自分の「家」や「部屋」をのぞかれるのは、あまりいい気持ちがないと思います。「福祉施設」に暮らしている人たちも、その気持ちはいっしょであることを、忘れないでいてください。

大きな声でさわりだり、走ったりしない、勝手に物にさわったりしないなど、自分も「いやだな」と思うことはしないようにしましょう。

2. 見学をして感じたり、不思議に思うことが大切です。

からだじゅうの感覚を使って、たくさんを感じてください。

むずかしく考えないで、「心」で感じてみよう！

初めて福祉施設へ行く人たちは、きっとおどろくことや不思議に思うことが、たくさんあると思います。自分の気持ちに正直になって、いろんなことを感じてきてください。

難しく考えたり、極端をつけようとしないで、からだじゅうの感覚を使って、「心」で感じることを大事です。

感じたことや不思議に思ったことは、あとから報告をしてもらいますので、メモしておきましょう。どんな小さなことでもいいので、たくさん書けるようにがんばってください。

感じたことは「びっくりした」「たいへんだと思う」という感想ではなくて、「何にびっくりしたのか」「どんなふうにたいへんだと思えるのか」の「何」「どんなふうに」が大切ですから、忘れないようにメモしましょう。

3. 不思議に思ったことは、あとから勉強できます。

不思議に思ったことは、あとから勉強していきますから、すぐにわからなくても心配はいりません。訪問にいったときに、施設の人に質問をしてもいいです。質問をしてわかったことも、メモしておきましょう。

「目標シート」(形式:3)

かすがいKIZUNA
福祉①－2007.9.7

<< 目標シート >>

目 標	できたら○
出会った人と「あいさつ」をしよう。	
話を聞くときは、話している人の顔をみよう。	
いっしょに過ごす時間を、楽しもう。	
感謝の気持ちを伝えよう。「ありがとう」	
感じたり、不思議に思ったことを書いておこう。	

***** ✕ モ *****

※足りなかったら、うらがわに書いてください。

なまえ		しせつめい 施設名	
-----	--	--------------	--

「訪問施設について」(形式:4)

かすがいKIZUNA
福祉①－2007.9.7

<< 訪問施設について >>

① あさひが丘(特別養護老人ホーム)

65歳以上のお年寄りで、いろんな理由によって、手助けが必要な人で、一人暮らしをしたり、家族といっしょに暮らすことができない人が暮らしているお年寄り専用の施設です。

※認知症…病気で、考えたり覚えたり思い出したりすることが苦手になります。でも、全部わからないのではなく、苦手なことはそれぞれです。

② 夢の家(身体障害者療護施設)

身体にしょうがいがあって、手助けが必要な人で、一人暮らしをしたり、家族といっしょに暮らすことができない人が暮らしています。

③ 養和荘(知的障害者入所更正施設)

知的(考えたり覚えたりする能力)なしょうがいがあって、手助けが必要な人が暮らしています。生活の練習をしていますので、施設の外で暮らすことができるようになる人もいます。

④ 春日苑(身体障害者療護施設)

身体にしょうがいがあって、手助けが必要な人で、一人暮らしをしたり、家族といっしょに暮らすことができない人が暮らしています。

「発見したことシート」(形式:5)、「感じたことシート」(形式:6)

発見したことシート



あさひが丘チーム

感じたことシート



あさひが丘チーム

(5) KIZUNAコミュニティ関連資料

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAコミュニティ～

タイトル	親子もちつき
日 時	2007年12月15日(土)
参 加 者	東高森台小学校全校児童1～6年、教員、PTA
目 的	親子や地域の人々との絆を深め、互いをより理解する。
実施内容	① 親子クラフト教室 どんぐりを利用したコマづくりを行った。 ②短冊にメッセージ 親子で短冊に互いを思う気持ちを記入。短冊は東高森台小学校に植樹する木にくくりつけ、気持ちをいつでも確認できるようにする。 ③もちつき 杵と臼でもちつきを行い、親子でいただいた。
場 所	春日井市少年自然の家
運営者名	かすがい KIZUNA、PTA 共催
関連資料	もちつき大会 イベント資料
支 援 者	中部大学応用生物学部 上野講師、学生
その他 関連画像	  

もちつき大会イベント資料

日 時 平成 19 年 12 月 15 日（土）

会 場 少年自然の家

参加予定人数 大人 89 名 小学生 112 名 未就学児 29 名

・ 当日の流れ

8 : 30	集合 準備	
9 : 30	ステージで挨拶	・ P T A 会長 ・ 校長 ・ かすがい kizuna 代表（上野）
9 : 45	イベント説明	（関山）
10 : 30	もちつき体験 & 会食	
11 : 00	クラフトブース開店	
13 : 00	閉会及びシンボルツリーへの短冊付け	

・ 役割分担

司会進行		上野・梅田
①親と子、友と友、いいところ見つけ	同時進行	スタッフ 4 名
②じゃんけんカード集め		〃
③バッジ作り		スタッフ 3 名
④どんぐりコマ作り		〃

終了後、植樹祭の木への誘導係り数名と後片付け数名が必要。

■ 親と子、友と友、いいところ見つけ

※餅がつき上がる時間が早いため、グループ分けしてゲームが終わった順に餅つきに参加させる。

食べ終わったら、もとの席に戻るよう指示する。

1. 3つのグループ（AからC）に分けてカードとお菓子を全員に配布する。
2. 個々のグループの中で親子または友達同士に分かれてそれぞれの良い所を短冊に書き込む。
3. 司会は、Aグループから準にランダムに番号を読み上げ舞台に上げゲームを始める。
4. ゲーム終了後、全員の短冊を回収して、記念樹につるす分をピックアップする。

■ じゃんけんカード集め

こんなゲームです

全員が5枚のカードを持ち、制限時間内に任意の人々とじゃんけんを重ね、ゲットしたカードの枚数を競い合うゲーム。

◎あそび方

①カード（15×10cm ぐらい）を1人5枚持って会場いっばいに広がる。

②リーダーの合図で任意の相手を見つけてじゃんけんをする。勝ったら相手からカードを1枚もらえる。

③相手を替えて次々とじゃんけんを重ねていく。

④制限時間

- 園児＋保護者（5分）
- 小学生＋保護者（3分）
- 中学生（2分）

⑤ゲーム終了時に持っていたカードの数で順位が決まる。

■留意点

- じゃんけんを望まれたらパスをしないようにする。
- カードがゼロになったら、ゲームから抜けるようにする。

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAコミュニティ～

タイトル	植樹祭
日 時	2007年12月13日(木)
参 加 者	東高森台小学校全校児童1～6年、教員
目 的	児童を中心とした地域の人間関係が形成された証として、植樹をし、人々が集まる居場所を構築する。
実施内容	東高森台小学校全校児童・教員・保護者による植樹を行った。 前半、体育館で植樹の意義について、PTA 会長、中部大学から説明を行い、児童の代表が木に対する気持ちを述べた。また、後半は工程で植樹を実施。1人1人が土をかける作業を行った。植樹した木は、今後、児童の学習教材としても活用していく。
場 所	東高森台小学校校庭
運営者名	かすがい KIZUNA、PTA 共催
支 援 者	造園業:賢庭造園道場 中部大学応用生物学部学生5名 中日新聞
配布資料	—
評 価 点	全校児童を対象とした学校行事に位置づけた。 四季の生態系の変化がわかるよう、アベマキの木を選定した。
改 良 点	他校に展開する際の費用の抽出が検討事項。
その他	
関連画像	 

(6) KIZUNAコーディネータ関連資料

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAコーディネータ～

授 業 名	技術教育～里山学講習
日 時	2007年12月3日(月)18:00～19:00
受 講 者	中部大学大学生、一般
目 的	里山の変化及び春日井市における里山保全の実態を理解する。春日井市で環境保全／普及啓発に取り組む専門家の価値観を理解する。
学習内容	・ 春日井市少年自然の家に勤務した理由(就労観) ・ 春日井市の里山の移り変わり ・ 人と自然の共存の必要性 ・ 里山等、自然観察の手法
場 所	中部大学 講義室
講 師	春日井市少年自然の家 浅見良平
支 援 者	中部大学 上野講師
教 材	
評 価 点	課外講習として行っただが、50名ほどの参加者が得られた。 春日井市少年自然の家で、長期間、自然の移ろいを感じ、取り組んでいる生の声や熱意に学生も心を動かされ、講習後も講師に質問を行っていた。 実際にメ縄を作るなどの作業を通し、自然と人との共存の大切さを実感した。
改 良 点	教育課程などに取り入れ、参加者の裾野を広げたい。
その他	 

かすがいKIZUNA授業実施報告

～KIZUNAコーディネータ～

授 業 名	社会・安全保障教育～福祉プログラム(6年生)アシスタント事前研修
日 時	2007年9月4日(火)9:00～18:00
受 講 者	中部大学大学生7名、KIZUNAスタッフ1名
目 的	施設訪問を有意義な体験にするための、引率する大学生アシスタントに対する事前研修。福祉についての概念と、訪問する福祉施設の概要を学び、引率者として訪問時の注意点と目標を確認する。
学習内容	・訪問施設の事前見学 ・福祉ってな～に？(誰もが幸せに生きる権利を持っていることの確認) ・福祉施設について(福祉制度と) ・訪問する施設の概要の理解 ・訪問時の注意事項と目標の確認
場 所	あさひが丘(特別養護老人ホーム)、夢の家(身体障害者療護施設)、養和荘(知的障害者入所更正施設)、春日苑(身体障害者療護施設) 中部大学 上野研究室
講 師	施設職員、可児由香(特定非営利活動法人で・ら・しえん代表)
支 援 者	施設職員、KIZUNAスタッフ1名
教 材	「福祉プログラムでのねらい」(形式:7)P83～P84 「施設を訪問する前に」(形式:2)P73 「目標シート」(形式:3)P74 「訪問施設について」(形式:4)P75
評 価 点	大学生とはいえ、専門外の内容なので戸惑いもあったと思われる。実際に、福祉施設の訪問ははじめての人が多く、事前見学は有効であった。 訪問時の注意事項と目標を確認したことが、不安解消につながったと思われる。
改 良 点	1日の内容としては分量が多かった。講義を別日に行う方がよい。
画像	

「福祉プログラムでのねらい」(形式:7)

2007.9.4

かすがい KIZUNA 6年生福祉プログラム 大学生向けオリエンテーション

かすがい KIZUNA

福祉プログラム担当 可児 由香

(特定非営利活動法人で・ら・しえん代表)

1. かすがい KIZUNA 福祉プログラムのねらい

生物の多様性の理解のうえに、人が生きるステージ「社会」に目を向ける。

「社会」もまた、多様な人で構成されていることを知り、ひとりひとりが役割を持ち、大切にされる関係のなかで生きていることを実感する。さらに、「社会」の構成員として、自覚と誇りを持つ。

2. 福祉とは？ 福祉は誰のもの？

福祉＝しあわせ

誰でも「幸せになりたい」と願い、幸せになる権利を持つ。

3. 社会福祉の制度など

(1) 介護保険法(2000年～)制度と障害者自立支援法(2006年～)

措置から契約へ(サービス受給者がサービスの内容や事業所を選ぶことができる。)

施設入所の他、在宅サービス(ホームヘルプサービス、デイサービスなど)がある。

(2) 福祉サービスを受給するには

【高齢者の場合】

対象：65才以上(特定疾患などの場合は40才以上)で、要介護認定を受け、要支援以上の人。

【障害者の場合】

対象：身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児
障害程度区分に応じて。

【サービスを受けるまでの流れ】

① 市町村福祉担当課を窓口、要介護認定・障害程度区分認定を受け、サービス受給の枠(利用月額)が決まる。

(参考)支給額 約5,000～350,000円

例：施設利用350,000円、グループホーム60,000円

原則、サービス利用総額の1割を利用者が負担する。

② ケアプランの作成(個々のニーズに合わせてサービスの内容を決める)

③ サービス提供事業者との契約

④ サービスの利用

2007.9.4

4. 訪問する施設の概要（別紙：訪問施設について）

5. 実施要領

どの施設も、前半の30分は説明と見学、後半の30分は交流の予定。

【サポートのポイント】

- ・ 率先してあいさつをしましょう。
- ・ 子どもたちの名前を覚えて、名前で呼ぶように心がけてください。
- ・ 施設の説明、見学のときは、子どもたちが集中できるように、気配りをしてください。
- ・ 見学は、子ども6人+学生がひとつのチームでまとまってください。チーム内ではできるだけ話題が共有できるようにしてください。
- ・ 見学のときは、固定概念にとらわれすぎないように。まずは、正直な気持ちで現実を見ることが大切です。
- ・ 交流の時間は、子どもたちが戸惑うかもしれません。話題に困るようなら、ひとりずつ自己紹介をするのも充分です。
- ・ 交流の時間にいっしょに歌を歌う予定です。手拍子をするなどして、盛り上げてあげてください。
- ・ 子どもたちが「目標シート」をかけるように、どんな小さなことでも無視しないで、取り上げてください。
- ・ 「目標シート」の「できたら○」は、みんな「○」になるように応援してください。

(7) 推進室の議事録・要旨など

第 14 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 6 月 20 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 6 月 14 日 (水) 18 : 30~24 : 00

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参加者 (以下敬称略) : 杉山, 太田, 浅見, 梅田, 奥村, 大島, 渡辺, 寺澤, 上野, 関山
計 10 名

議題

1. 平成 19 年度実施内容・東高森台小学校との早期調製について
2. 平成 19 年度役割分担について
3. 平成 18 年度経費支払いについて
4. その他

1. 平成 19 年度実施内容・東高森台小学校との早期調製について

平成 19 年度の実施内容について 4 年生, 5 年生, 6 年生別に 1 年間の取り組みが記入された資料が各学年 1 枚ずつ配布され, それをもとに各学年の今年度の本事業の実施内容について可能な点, 不可能な点を洗い出し, 細かく話し合われた。また実施について各学年について担任への説明が必要との話があり, 早期に実施することが望ましいとの決定がなされた。

2. 平成 19 年度役割分担について

平成 19 年度実施内容に沿った各自の役割分担について資料が 1 枚配布され項目のチェックが行われた。項目によっては急を要するものも含まれるため, 早急に行動に移すことが求められた。

3. 平成 18 年度経費支払いについて

前回配布された資料をもとに 18 年度分の経費の支払いがおこなわれた。

4. その他

・2 日前に中部大学のトップとの話し合いがなされ, 思うように行っても良いと, 実質的なバックアップを得ることができたとの話が上野よりなされた。

■次回

6 月 28 日 (木) もしくは 29 日 (金) 時間, 場所は未定。(追って ML にて連絡)

以上.

第 15 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 7 月 8 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 6 月 28 日 (水) 18 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参加者 (以下敬称略) : 杉山, 浅見, 梅田, 可児, 上野, 関山
計 6 名

議題

1. 進捗状況報告
2. 実施内容確認
3. その他

1. 進捗状況報告

- ・PTA 今年度行事内容について (梅田)

PTA の年内行事予定について資料が一部配布され説明があった。

- ・東高森台小学校 4, 5, 6 年生担任への説明について (上野)

「小学校の担任はとても忙しく、連携は難しい。」と始めは言われたが、ESD のカリキュラムが今の授業内容を踏まえて組んである点や、こちら側のサポートがあるのならば、とおおむねで了承を得た。また、大学での人材集めも進んでおり、新しく 2 年生の学生 6 名の人材が確保できたとの報告があった。

- ・福祉カリキュラムについて (可児)

6 年生の福祉カリキュラムについて資料が配布され説明があった。

2. 実施内容確認

- ・ホームページ作成について (梅田)

7 月中に構成を検討するため、次回までに大まかな形を提示することとした。

- ・行政連携について

市への報告を行う際の人員について上野, 梅田, 校長が最適とし、近いうちに行うこととした。

3. その他

- ・ホームページの作成時の URL を kasugaikizuna. ~ とした。
- ・保護者向け説明会について杉山より資料を使って説明があったが、詳しくは次回とした。
- ・名詞作成について住所は大学とし、全員ではなく希望者のみの作成とした。
- ・フラッシュの講習会を 7 月下旬に予定しているので日にちを何日か指定してほしいとの伝言が渡辺よりあった。

■次回

7 月 10 日 (火) 18 : 00~21 : 00

以上.

第 16 回 E S D 「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 7 月 11 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 7 月 10 日 (火) 18 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参加者 (以下敬称略) : 杉山, 浅見, 大島, 渡辺, 可児, 上野, 関山
計 7 名

議題

1. 実施内容確認
2. ラーニング詳細のつめ
3. その他

1. 実施内容確認

市との対話について

市長、教育委員会への挨拶について、梅田、上野で日にちを調整して出向く予定だが、予定より遅れて 7 月下旬になるみこみ。以降の活動にも深く関わってくるため、可能なかぎり早く出向くようにすることとした。

アンケートについて (渡辺)

生徒達に実施するアンケートについて、渡辺より資料が一部配布され、意見が交わされた。アンケートは年に二回行なう予定で、我々の活動によって子供達の考えがどれだけ変化したのかを見る。内容に修正を加え、夏休みの出校日 (第一希望は 8 月 20 日) に配布することとした。

親子研修会について

四年生の親子研修会についての話し合いがなされた。8 月 20 の出校日には、との話が出たが、詳しい日程は浅見が四年生の担任と直接話し合うこととした。

2. ラーニング詳細のつめ

6 年生のカリキュラムについて (可児)

主な訪問施設の資料一枚が配布され、可児より説明があった。

5 年生のカリキュラムについて (上野)

森の健康調査について、小学校にはまだ連絡していないが、10 月 10 日以降に少なくとも 2 回は授業を行いたいとして、今後は 7 月 20 日以降に上野が 5 年生担任と直接連絡をとりあうこととした。

3. その他

環境省からのヒアリングについて (杉山)

環境省が各団体のそれぞれのメンバーからヒアリングを行なって目標共有シートというものを作成している。春日井 K I Z U N A にも近いうちに新海さんが会議に参加される。日時は追って連絡。

ホームページについて

ホームページについて梅田からの伝言が資料として一枚配布された。スタッフ紹介として 150~200 字程度と実績報告で使用するコンテンツ (写真など) を含め 7 月 21 日 (土) までに梅田にメールにて添付するようにとの連絡があった。(詳しくは 7 月 11 の上野発信の ML に添付)

出張授業について (上野)

7 月 4 日の東高森台小学校 6 年生への出張授業について、資料を一部配布し上野より報告があった。

■次回

7 月 24 日 (火) 18 : 30~21 : 00

以上.

第 17 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 7 月 29 日

中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 7 月 24 日 (火) 18 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参加者 (以下敬称略) : 杉山, 高橋, 太田, 浅見, 奥村, 大島, 渡辺, 可児, 上野, 関山
計 10 名

議題

1. 進捗状況報告
2. その他

1. 進捗状況報告

・行政連絡について (上野)

市長に対して、7 月 26 日に学監が挨拶に行き、その後一週間以内に上野と可能ならば寺澤が挨拶に出向くこととなった。

・保護者懇談について (渡辺)

9 月 4 日の学校行事の草刈りが終わり次第、10 時 30 分頃から 1 時間ほどを予定。内容としては、8 月 20 日実施のアンケート結果と座談会を行うこととする。

・ラーニング 4 年 (浅見)

7 月 30 日の出校日の 9 時~12 時に生物の観察についての手ほどきを実践を交えて行うことを予定している。

・ラーニング 5 年 (上野)

7 月 27 日に担任との打ち合わせを行い、今後について詳しい話し合いをすることを予定している。

・ラーニング 6 年 (可児)

8 月 3 日に施設に挨拶回りを行い、趣旨を説明し、訪問可能な日にちの希望を確認してくることを予定している。

・コミュニティ

来年の企画ではあるが、市政 65 周年事業の企画に応募し、コミュニティとして行ってはどうかという話が、資料を使って可児より説明があった。また、社教のお祭りなど今後のコミュニティに関する内容は、後日渡辺から配信を予定する。

・学ブレについて

来年度の開催校として、岩成台小学校と出川小学校が挙がったが、新しい学校のほうが受け入れられやすいとの意見もあり、機会があれば出川小学校の訪問を予定することとした。

・次を担う学生に向けて、ESD、里山、福祉の三点について説明会を開くことを次回の会議にて詳しく話すこととした。

2. その他

- ・わくわく市長対話が 7 月 26 日に開催され、東高森台小学校からも一人参加する予定である。
- ・フラッシュ講習会を 9 月 3 日に行うこととした。
- ・渡辺より名刺について所属を後日メールするようにとの連絡があった。
- ・ESD 採択にあたり、遅れながらではあるが、祝賀会を開いてはとの話があり、後日 ML にて配信する予定である。

■次回

8 月 23 日 (木) 18 : 30~21 : 00

第 18 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 9 月 5 日

中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 8 月 23 日 (木) 18 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参 加 者 (以下敬称略) : 杉山, 高橋, 太田, 浅見, 梅田, 大島, 渡辺, 可児, 上野, 環境省 (新海, 桜井, 吉沢) 関山 計 13 名

議題

1. 進捗状況報告

2. その他

番外. 目標共有ワークショップ (環境省より)

1. 進捗状況報告

・ホームページについて (梅田)

ホームページの作成について梅田より資料が一部配布され, 現時点でのホームページの改善点を話し合った. 硬いイメージがあることや, 対象を誰にするかはっきりさせるべき, などの意見が出され今後もメールで意見を募り改良していくことを確認した.

・福祉施設見学について (大島)

6 年生の福祉施設見学のカリキュラムをうけて, 大島らが 8 月の中旬に複数の施設に訪問した結果, 受け入れ先が「社会福祉法人明和会 夢の家」, 「社会福祉法人養楽福祉会 養和荘」, 「社会福祉法人春生会 あさひが丘」の 3 つになったことが報告された (その後 9 月 3 日に春日苑が追加され 4 施設となった.). また, 予定日は 9 月 13 日の午後, バスをチャーターし各班に事前学習を受けた大学生が付き添うことが確認された.

・市への挨拶回りについて (上野)

市への挨拶回りの報告が上野よりされた. 表立った協力は出来ないものの, 全体的には前向きな反応であり, 校長会でのプリント配布などの許可がでた. また市長への挨拶はもう少し実績を積んでからの方が良いとされ, 今回は見送られた.

2. その他

・9 月 4 日保護者向け説明会が実施され 1 時間未満で上野, 梅田が中心で行なわれる. 内容は 8 月 20 日のアンケート結果について. (当日は 10 名の保護者が集まり, 自分が求める子ども象について話し合いがもたれた.)

・9 月 12 日, 五年生のカンアオイの下草刈りが行なわれる.

・9 月 13 日, 六年生の福祉施設の見学が行なわれる. また, 12 日, 13 日共にアシスタントの大学生は前日までに事前学習を行なう.

・8 月 20 日の出校日に行われる予定であった 11 月 22 日の下見が中止になったことに伴って, 同日に急きょ東高森台小学校の全担任との話し合いの場が設けられた. こちらからは上野, 大島, 関山が参加した. 本活動について低学年の担任に関して特に強い拒絶反応がみられたが, 話し合いの結果, 摩擦は減少した.

番外. 目標共有ワークショップ (環境省より)

・各地域の問題を抽出し, 目標を共有するために目標共有ワークショップという作業を環境省の進行で行った.

テーマ『かすがい KIZUNA で今年度わたしがやりたいこと』（以下回答順）

関山：楽しく学んで、自分も楽しく。

上野：小学校と KIZUNA との信頼関係獲得。

大島：6年生（4・5年生も）の総合学習の中に、どのように効果的に KIZUNA を入れるか。

可児：大島先生の応援。社会はいろんな人がいること、あなたは大切な人であるということ、助けることも助けられることも大切であることを子どもに伝えたい。子どもの学びに主体的に参加する大人を増やしていくため、活動を伝える。

渡辺：子どもの意識変化。小学生また大学生向け教育カリキュラムの整備。KIZUNA データベース。

杉山：体制の強化。（成果意識）

太田：ネイチャーガイド。ネイチャーレクチャー。地域住民の環境意識向上。媒体を通した環境意識の向上。地元小学校との取り組み拡大。

梅田：かすがい KIZUNA・・・？子どもの今・昔。

高橋：身近な生き物の現状把握により、近い将来の保全を意識化。ビオトープの増設による子どもとの交流。

浅見：かすがい KIZUNA の中で自分ができることの認識。KIZUNA の中のつながり認識。外へのつながりの発見。

次回：9月10日（月）18：30～21：00

以上。

第 19 回 E S D 「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 9 月 11 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 9 月 10 日 (月) 18 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 32 号館 2 階会議室

参 加 者 (以下敬称略) : 杉山, 太田, 浅見, 梅田, 大島, 奥村, 可児, 上野, E P O (新海, 桜井) 関山 計 11 名

議題

1. 進捗状況報告
2. その他

1. 進捗状況報告

・ 6 年生対象の福祉施設見学について (可児)

9 月 13 日に実施される 6 年生対象の福祉施設見学について, 可児より資料が 2 部配布され, 説明があった. 今回の実施に伴って 9 月 4 日に, アシスタントの学生を対象とした事前学習を半日, 9 月 7 日には 6 年生を対象とした事前学習を 2 コマ 80 分実施した. また, 当日は 4 施設に各班 6 人ずつで各施設 2 班が見学に向かう予定であると報告された.

・ 9 月 4 日保護者説明会について (上野)

保護者説明会の結果報告が上野よりなされた. 当日, 保護者側の参加者は P T A 役員を中心に 11 名, 8 月 20 日のアンケート結果を元に一時間ほど話し合い, 最後にアンケートを記入してもらった. 保護者側からの意見として「子ども達とともに活動に参加してみたい.」「今後も今回のような説明会の場をもってほしい.」など, 本活動に期待を示す発言が多く聞かれた. との報告があった.

2. その他

・ E P O の新海, 桜井より, 前回の会議でおこなった目標共有ワークショップをもとに作成された資料が一部配布され, 修正点を話し合った. また, 今月中は修正が可能なので指摘があれば後日でも修正するとの説明がなされた.

・ これまでの活動の整理, 今後の活動の展望について杉山より資料が一部配布され説明があった.

・ 各学校の P T A 会長どうしの会合に梅田が参加し, その中で本活動についての P R をおこなったとの報告があった. 反応はとても良く, 今後, 実績が上がればその場での資料配布なども本活動を広げていくうえで有効であるとの報告がなされた.

・ ビオトープの拡張について大島より説明があった. ビオトープ横のわんぱく山跡地について, 今後 12 月までには 6 年生に設計図を描かせ, 予算の許す限りでの拡張をおこなっていく予定.

次回 : 10 月 4 日 (木) 18 : 30~21 : 00 (予定)

以上.

第 20 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 10 月 12 日

中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 10 月 4 日 (月) 18 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参 加 者 (以下敬称略) : 杉山, 浅見, 板倉, 大島, 渡辺, 寺澤, 可児, 上野, EPO (新海, 桜井, 大西), 2 年生 (天沼, 有賀, 稲垣, 大塚, 門野, 横井) 関山 計 18 名

議題

1. 進捗状況報告
2. 今後の活動
3. その他

1. 進捗状況報告

6 年生福祉授業報告 (可児)

9 月 13 日に行われた 6 年生の福祉施設見学についての報告が可児よりなされた。見学は「春日苑」「あさひが丘」「養和荘」「夢の家」の 4 施設に対して、各施設 2 班ずつ、計 8 班が訪れた。また各班には大学生が一人ずつ付き添った。小学生は想像以上に真剣に取り組んでおり物理的なバリアを取り除くことはできた、今後は精神的なバリアを取り除くことに重点を置いて、10 月 6 日の運動会以後に今後の授業を進めていきたいとの報告があった。授業方法の提案として「各班に別れ子どもたちの意見を抽出してはどうか」などの意見が出た。

5 年生チョウの調査、下草刈り報告 (関山)

9 月 12 日に行われたチョウの調査およびギフチョウ産卵場所の下草刈りについての報告が、不在の高橋に代わり関山よりあった。調査は少年自然の家の敷地内で行われ、調査には大学生が 5 名と高橋を始めとする自然観察員 3 名が参加した。調査の準備が急すぎたため真意が上手に伝えられない部分もあったことや、事前学習も含めてもう少し改善の余地があるのではとの意見が出た。

4 年生四季の自然観察報告 (浅見)

浅見より 9 月 27 日、4 年生に対して理科の授業を 2 限使って行なったとの報告があった。内容としては前回に引き続き、普段の自然観察よりも更に踏み込んだ自然観察方法を前提に、夏と秋の違いを観察し、命のつながりについて授業を進めた。また、その後まとめの授業を担当が 1 限を使って行なったと報告された。

2. 今後の活動

植樹祭について (渡辺)

植樹祭を行うにあたって樹種、時期などについて板倉を中心に話し合いがされた。樹種については「PTA の意見を抽出しては」、との意見や、開催日について「12 月 15 日の PTA 行事の餅つき大会と合わせては」、との意見が出されたが、詳しくは次回話し合われることになった。

e ラーニングについて (渡辺)

今後の e ラーニングの展望について資料が一枚配布され、説明があった。システムの利用に先立って、活動に参加している大学生には ID が配布され、今後小学生に対しては 5, 6 年生にだけ ID を配布し、4 年生の申請は見送ることとした。

3. その他

- ・前日、校長会にて梅田が配布した資料が紹介された。
- ・大島から板倉に、ビオトープの増設についての提案がされた、12 月までに 6 年生が設計図を作成。「どこまでできるかは分からないが、生徒達の自主性を尊重しつつ、手の届かないところは支援する。」との話が板倉よりあった。
- ・EPO より新人の紹介と、前回の報告があった。

次回: 日にちは ML にて後日連絡。テーマ「コミュニティについて」

第 21 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 10 月 18 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 10 月 17 日 (月) 19:00~21:00

場 所 : 中部大学 32 号館 2 階会議室

参加者 (以下敬称略) : 梅田, 大島, 渡辺, 寺澤, 可児, 上野, EPO (桜井, 大西), 2 年生 (稲垣, 横井) 関山 計 11 名

議題

1. 進捗状況報告
2. コミュニティについて
3. その他

1. 進捗状況報告

5 年生対象「森の健康診断」について (関山)

10 月 12 日 9 時 00 分~12 時 15 分まで, 5 年生を対象として行った森の健康診断の授業内容が報告された。当日は子ども 5~6 人に対して, 学生を中心とした事前学習をしたアシスタントが男女 1 名ずつ付き添った。授業内容としては最初に 30 分程度の PPT による説明を行ったあと, 事前に作製した資料をもとにアシスタントを中心に森の健康状態を調査した。アシスタントが各班に男女 1 名ずつ付けることができたことが功を奏し, 子ども達に質の高い授業を行うことができた。また, 今後はフォローアップの授業を 11 月 14 日に実施し, 理解を深めたいとの報告があった。

2. コミュニティについて

12 月 15 日に行われる PTA 行事の持ちつき大会 (少年自然の家で実施され, 去年は 300 人程度が参加した) で 1~1.5 の時間を KISUNA で使わせてもらえることとなり, それに伴って企画内容の話し合いがされた。

チーム分けについて

司会者の手拍子の数で人数を決め, 即興でチームを編成してはどうかという案が出た。クイズはチーム (なるべく大人, 子どもが混ざった) で挑み, 大人と子どものコミュニケーションをはかり, 絆を確認することを目的とする。

クイズ「利き土」

何種類かの土を用意し, 「水を通しやすい土は?」「虫が好きな土は?」「植物の好きな土は」などをグループで話し合い決めてもらう。

クイズ「ギフチョウはどれ」

ギフチョウの写真を用意し, 卵, 幼虫, 蛹, について他のチョウの写真と比べどれがギフチョウかを当ててもらう。

「早くギフチョウになりたいゲーム」

アイスブレイキングとしてゲーム開始前に参加者の気を引くために行えば効果的。参加者は卵からスタートし, じゃんけんを繰り返しながら, 卵から幼虫, 蛹, 成虫と順番で進化していく。成虫になれば終わり, じゃんけんは同じ段階の人としかできない。

植樹祭について

全てが終わったあと希望者だけが学校にて行うのが有力。木の選択も含め, 詳しくは後日親方に連絡とした。

その他

クイズには景品をつけたほうが良い, 中日新聞に取材に来てもらったほうが良いなどの意見がでた。また, 今後はコミュニティの担当である梅田を中心として森田, 奥村の WG でコミュニティを活性化していく事を確認し, 次回全体会議までに WG で内容をつめるようにとの連絡がされた。

3. その他

- ・ホームページについて梅田から進捗状況の報告があった。

- ・ 11 月 6 日に校長会にて配布する予定の資料が，梅田から上野に渡された．修正点などは当日までにメールにて連絡することとした．
- ・ 来年の市政 60 周年記念イベントの参加の申請を出したとの連絡が可児よりあった．
- ・ 10 月 22 日 13 時 45 分から可児によって，6 年生対象福祉施設見学のまとめ授業を行うことが決まった．

次回： 日にちはMLにて後日連絡．

以上．

第 22 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 11 月 1 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 10 月 30 日 (火) 18 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参 加 者 (以下敬称略) : 杉山, 浅見, 梅田, 奥村, 大島, 渡辺, 上野, 関山 計 8 名

議題

1. コミュニティについて
2. その他

1. コミュニティについて

餅つき大会スケジュールについて (梅田)

餅つき大会当日のスケジュールが資料一枚を使って梅田より説明された。餅つき大会当日にコミュニティ活動を行うことについて、PTA 役員は了承し梅田先導の元で役員会でもいくつかのアイデアが出されたようだ。（「経費があるなら参加賞に飴やエコ関連の商品をつければ。」「スタンプラリーをしては。」など）また、PTA 以外に、みろく会にも声がかけてあるので、イベントを手伝ってもらうことも可能であると報告があった。

開催場所について

少年自然の家のどこで実施するのかという話し合いがなされた。「晴れた場合は野外ステージで行っては。（大島）」などの意見が出たが、晴れた場合は何箇所かの小さなブースをいくつか設置する方向で概ね合意された。また、雨天時はラウンジを使う案も出たが、プレイホール（有料 ¥4,800）を使う方向で合意がなされた。

イベント案について (奥村)

当日のコミュニティイベント案について、資料が一枚配布され、奥村より説明があった。

イベント内容「親の手もしくは子の手がわかるかなー?」「親の気持ちもしくは子の気持ちがわかるかなー?」

「それぞれについて、子への思い、親への思いを短冊（間伐材が良い 上野）に書いてもらい、後に植樹した木にくくりつけられ。（杉山）」「もっと子どもだけでも参加できるイベントを作りたい。（大島）」などの意見が出たが、細かなブース内でのイベントは今後詰めていくこととした。

植樹祭について

植樹祭で植える木について、「広がりイメージできる木がいい。（梅田）」「どんぐりのなる木がいい。（上野）」「東高森に合う木がいい。」「大きな木がいい。」などの意見が出されたが、詳しくは後日、今回の意見を盛り込んだ案を上野が親方に確認し、今後更に検討していくという方向で合意された。

また、植樹祭を餅つき大会当日に行うか、後日行うか、という話し合いがなされたが、どちらにしろ、もう少し検討の余地があるとされ、結論は先送りされた。

2. その他

・ホームページの構成について渡辺より資料が一枚配布され、説明があった。今後は梅田を中心に渡辺と二人で協力し合い、11 月中をめどにしてホームページを立ち上げる事を確認した。

・「かすがい KIZUNA」が 1 月 14 日に RCE でグッドプラクティスを受賞することが、ほぼ確定したと上野より連絡があった。

・学生を対象とした，浅見による里山に関する講演が11月26日，12月3日のどちらかで行われることが決定した．

次回： 11月15日 18：30～21：00 中部大学30号館6階会議室にて

以上．

第 23 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 11 月 16 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 11 月 15 日 (木) 18 : 30~21 : 00

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参 加 者 (以下敬称略) : 浅見, 板倉, 梅田, 大島, 渡辺, 桜井, 上野, 中部大学二年生 (有賀, 稲垣, 大塚, 門野, 横井) 関山 計 13 名

議題

1. コミュニティについて
2. その他

1. コミュニティについて

植樹祭の木について (板倉)

前回の会議内容より, 上野から板倉に植樹祭用の木についての質問メールが送信され, それについての解答が板倉よりあった. シンボルツリーとしては 1 本が良い, 木陰がほしい, どんぐりをつける木が良い, 短冊をつけるなら下枝が必要, 大きな木が良い (5m 以上), この地方の木が良い, 15 万円以内, などの意見を統合した結果, コナラ, アベマキ, モンゴリナラの三種が, それら全ての要望に叶っている, と報告された.

それを受けて, 三種のうちどれが適正か話し合われた結果, アベマキが最有力候補とされ, 今後板倉が手に入るか確認することとなった.

植樹祭日程について

植樹祭日程について, 「餅つき大会よりも前に行いたい」との意見があり, 急遽, 12 月 13 日 (木) の午前中に行うことが決定した. 植樹祭は学校の授業の一環として行われ, 詳しくは今後話し合うことになった. また, それに伴っての下準備を, 同月の 9 日 (日) の午後から, 板倉と学生数名で行うことも決定した.

餅つき大会について (梅田)

12 月 15 日に実施される餅つき大会について, 梅田から資料が 3 部配布され, 餅つき大会で行われるコミュニティ活動の内容を確認, 改良した. 前回, 奥村より提出されたゲーム「親の気持ち, もしくは子の気持ちが分かるかなー?」では, 短冊に親や子への願いを書いてもらう予定だったが, それでは悪いところばかり書かれるのでは?との発言をうけ, 大島から「いいところ見つけ, をしてもらい, それを短冊に書いてもらえばよい. そうすれば, 親と参加していない子どもたちも参加しやすい.」などの意見が出され, 採用された.

また, 浅見より「30 分では時間が長すぎて集中力が続かない. もう少し短縮しては?」との意見がでた. 今後は, 時間配分も含め, 必要な道具の調達願い, イベントにおける保険の加入, などとともに梅田が ML で連絡することとなった.

2. その他

- ・11 月 14 日に, 5 年生を対象とした「森の健康診断」のまとめ授業を, 関山が 3 時限使って行ったとの報告があった.
- ・11 月 22 日に, 東高森台小学校で実施されるオリエンテーリングについて, 岩船神社を含めた 3 ヶ所で, 中部大学の学生にクイズを出題してほしいとの依頼があり, (うち岩船神社では問題も作成) 上野, 関山等に快諾された.
- ・大学生を主な対象とした, 浅見による里山についての講義が, 12 月 3 日に行われる事が決定した.

一般参加も可能で、詳しい場所などは後日連絡される。

- ・ 東高森台小学校宛に中日新聞から、20 日（火）の記事に記載したいとの連絡があり、14 日実施した五年生対象「森の健康診断」について、16 日（金）に小学校へ取材が来る、との連絡が大島よりあった。

次回： 12 月 3 日（月） 詳細は後日連絡

第 24 回 E S D 「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 12 月 18 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2007 年 12 月 3 日 (木) 19 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 3022 教室

参 加 者 (以下敬称略) : 高橋, 浅見, 梅田, 大島, 渡辺, 桜井, 石井, 寺沢, 可児, 上野, 中部
大学三年生 (永田, 三宅) 関山 計 13 名

議題

1. コミュニティについて
2. その他

1. コミュニティについて

餅つき大会について (梅田)

餅つき大会当日のイベント内容について, 梅田から資料が二部配布され, 細かな内容についての話し合いがなされた. 変更点として, 雨天時は, ゲームを中止し (体育館が他の団体により使用されている為), クラフトブースのみの設置とすることや, 風船割りバトルは, 危険性などの面から中止とする. など. 更に細かな話は 12 月 13 日の植樹祭の後に行うこととした.

来年度のコミュニティについて (上野)

来年度のコミュニティ活動として, 上野から, 市制 65 周年イベントを利用すべき, との提案があった.

詳細: 場所は東部市民センターで, 2008 年 10 月 18 日に希望を出している. 予算は春日井市より 10 万円が支給されるが, プラス α として, ある程度は参加団体からの自己負担が必要. 内容としては, 活動発表と議論の場となる予定. 数日のうちに ML でタイトルを募集する. (12 月 5 日をもって募集終了. 最終的に太田の『育もう! K I Z U N A, 三世代へ—地域の今と明日(あした)を考える—』が採用された.)

2. その他

- ・11 月 20 日の中日新聞に, 五年生で実施した, 森の健康診断の記事が記載されたとの連絡があった.
- ・11 月 22 日の校内オリエンテーリングについて, 子ども達は, 大学生が用意した問題に積極的に取り組み, 正解率も高かった, との報告が大島よりあった.
- ・今年度の精算について, 渡辺から, 12 月中に ML にて支出状況を知らせるように, との連絡があった.

次回: 予定) 2008 年 1 月 10 日 (木) 18 : 30~21 : 00

第 25 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2008 年 2 月 1 日

中部大学応用生物学部 3 年 永田麻由
三宅美帆

開催日 : 2008 年 1 月 10 日 (木) 18 : 30~21 : 00

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参 加 者 (以下敬称略) : 太田, 可児, 環境省 (後藤, 太田), 桜井, 板倉, 大島, 浅見, 上野, 渡辺, 杉山, 関山, 永田, 三宅 計 14 名

1. 実施報告
2. 今後の活動について
3. その他

1. 実施報告

植樹祭について (上野)

12 月 13 日に行われた植樹祭と 12 月 15 日に行われたもちつき大会についての報告があり, とてもよい成果が得られたとのことだった.

かすがい KIZUNA プロジェクトお披露目フォーラムについて (桜井)

2 月 9 日に行われるお披露目フォーラムについて, 桜井から資料を 1 部配布され, 上野らにフォーラムでさらにプロジェクトが発展するように具体的な内容を教える発表をして欲しい. との依頼があった.

2. 今後の活動について

来年度の ESD について (上野)

今後の改善点として, ホームページが未だ立ち上がってないことや, PTA への報告が行われていないことがあげられた. また, 小学校の先生の評価がほしいとのことで大島にアンケートの実施依頼があった (内容については後日 ML にて). また, 大島から PTA の中で KIZUNA の活動を親へ報告する人を設けようとの提案があった.

3. その他

- ・1 月 27 日に KIZUNA 事業の報告会があるため ESD の目立つ活動の事例発表をするとの報告があった.
- ・1 月 26 日にエコメッセにて子供シンポジウムがある, との連絡が大島からあった.
- ・1 月 15 日に 4 年生に冬の生物調査について, 浅見が授業を行う予定.
- ・板倉から植樹祭で植えた木について水やりを定期的に行い, 木を枯らさないようにとの注意があった.
- ・昨年度の精算について, 渡辺から, 年末に報告した方には 2 月ごろの支払いになる, との連絡があった.

次回 : 1 月 31 日 (木) 18 : 30~21 : 00 中部大学 30 号館 6 階会議室にて

以上.

第 26 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2008 年 2 月 1 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2008 年 1 月 31 日 (木) 18 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 30 号館 6 階会議室

参 加 者 (以下敬称略) : 杉山, 太田, 板倉, 浅見, 梅田, 渡辺, 桜井, 宇野 (EPO), 可児, 上野,
関山 計 11 名

議題

1. 実施報告
2. 今年度やり残し作業
3. 次年度活動
4. その他

1. 実施報告

1 月 27 日 RCE フラッグシップフォーラムについて (上野)

上記について, 上野が「かすがい KIZUNA」の流れを, 関山が授業実施について, 計 15 分ほどで発表したとの報告があった。

4 年生の授業について (浅見)

夏, 秋, に続いて, 季節による生物の変化についての授業を実施した。当日は 2 時限を使い, コンピュータールームでの授業と, ビオトープ周辺での調査, 2 つに分けて最終的には, 人間の生活には様々な野生動物が暮らしている, という説明をして終わったと報告があった。

4, 5 年生の授業打ち合わせについて (渡辺)

今後の授業の打ち合わせについて, 4 年生については, 3 月上, 中旬に愛知県環境センターが, 5 年生については 2 月 19 日の午前中にユネスコ名古屋が実施する予定であり, 今後, 更に詳しく打ち合わせをする予定である。との報告があった。

2. 今年度やり残し作業

今年度の授業, 報告会などは以下が予定されている。

5 年生の授業	ユネスコ名古屋安達氏, 渡辺	2/19 (火) 9 : 00~10 : 30 ? PC 教室
4 年生の授業	愛知県環境調査センター林氏, 渡辺	3 月上, 中旬
事業報告① (環境省中部地方事務所主催)	2/9 (土) 11 : 00~17 : 00 ?	途中参加可能
事業報告② (環境省 ESD-J 主催)	2/15 (金) 終日	

ホームページ開設について (渡辺)

以前に梅田が作成したものを基に作成中であり, 2 月上旬にアップする予定であると報告があった。

PTA および小学校への報告について

上記について, 新しい校長が赴任してからの来年度組織で実施が望まれたが, 2 月 15 日の報告の兼ね合いなどより, 今後大島を交え, 打ち合わせを行うとした。

3. 次年度計画

東高森台小学校側の意見

書面で上記についての説明があった。小学校としては, 来年度も大筋で継続の流れであるが, 福祉については, 改善する必要があるとされた。「来年度は一学期から実施し, 心理, 教育関係の先生方の助言をもとに授業を展開していく予定。」(可児)

組織メンバーの方向性の確認について (上野)

上記について, メンバーに確認をとった。本年度活動を基本とすることに概ね合意されたが, 運営体制などを含め詳しくは次回話し合われる予定。

事業の今後の展開について (上野)

H20 年度松下教育研究財団への予算申請が受理され（「理数教科と連携した里山教育の ICT を活用した教育実践」2008 年 4 月～2009 年 3 月），KIZUNA メンバーに可能な部分でご協力いただいたとの報告がなされた．詳しい内容については今後話し合われる．

4. その他

- ・2 月 9 日の報告会について，資料を 2 部使用し，桜井から説明があった．当日は 13：30 より上野と関山が約 40 分で報告し，報告会後は分科会での作業に移る予定である．分科会の割り振りについても決定され，テーマ別に「つなぐ」は梅田が，「人と人の関係」は可児が，「ESD と企業」は上野が，「つなぐ役割とつなぐ人」は板倉が，「未来をつくる学び」は関山が，担当することになった．
- ・梅田が来年度も PTA 会長を続投することが決まったとの報告があった．また，来年度の PTA 行事の提案として，親父の会結成による盆踊りが提案された．

次回： 予定) 2008 年 2 月 19 日 (火) 18：30～21：00

第 27 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2007 年 3 月 9 日

中部大学応用生物学部 3 年 永田麻由

三宅美帆

開催日：2008 年 2 月 19 日（火） 18：30～21：30

場 所：中部大学 30 号館 6 階

参 加 者（以下敬称略）：太田，梅田，大島，浅見，杉山，渡辺，可児，上野，関山，永田，三宅 計 11 名

1. 実施報告
2. やりのこし作業
3. 次年度活動
4. その他

1. 実施報告

2 月 15 日の事業報告について（上野）

2 月 15 日に東京で行われた事業報告についての話で、いろいろなチームの事業報告や「ESD とは何か」などの話があったとの報告があった。

今年度で今の課題は終わりにするとの事だった。また新たに 4 地域が追加されたとのことだった。

こども環境シンポジウムについて（大島）

「森を見よう」という流れになっているようだ。そこから改善策を考えることが大切で新たな課題として追加された。

再来年から英語の授業が始まるので時間を上手に使わなければならないとのことだった。また、こども環境シンポジウムはこれからも続くそうだ。

2. やり残し作業について

ホームページはもうすぐ立ち上がるとの事だった。運営体制の表は載せないことになった。また、小学校への報告は 3 月 21 日 15：30 に決定した。学生についても自己評価の必要があるとの意見が出た。自己評価後、上野先生と話し合いをして今後につなげるという方針。PTA への報告会は 4 月以降に行いたいとのことだった。

3. 次年度活動について

- ・ 教科とタイアップした総合学習のほうが受け入れられやすい、との意見が大島からあった。また、6 年生は忙しいため 1 学期で終わらせた方がよいという意見が出た。
- ・ 浅見から、何を売りにして活動するかとの意見がなげかけられた。
- ・ 可児から、ESD を続けていくために、PTA の人や大学生が係わることが大切で、これから福祉のことを積み上げて行っていきたいとのことだった。
- ・ 太田から、活動しやすくするため営業ツールを作ることが大切との意見が出た。

4. その他

- ・ 梅田から、5 月 17 日（土）のウィークエンド教室について、題材は何でもよいので、かすがい KIZUNA で実施してほしいと話があった。これに関して、上野より、福祉をテーマに行うのも良いのではないかと意見が出た。

第 28 回 ESD「かすがい KIZUNA」推進室議事録

2008 年 3 月 18 日
中部大学応用生物学部 4 年 関山洋

開催日 : 2008 年 3 月 11 日 (火) 18 : 30~21 : 30

場 所 : 中部大学 32 号館 2 階会議室

参 加 者 (以下敬称略) : 上野, 梅田, 大島, 可児, 杉山, 森田, 行本, 渡辺, 関山 計 9 名

議題 : 今後の方針について

今後の主な課題 (杉山)

現体制の確認と課題の抽出を行い, 来年度以降の方向性についての話し合いを行う必要があるとの提案が杉山よりあり, 組織において以下のような課題が挙げられた.

- ・組織の役割分担など運営が未だ不十分である. (役割の重複が有り, 個人の負担が大きいため来年度以降の持続が難しい)
- ・組織としての春日井市との連携が未だ不十分.
- ・ラーニングにおいて「命を尊ぶ心の育成」を目指したが, 実際のところ評価ができていない.
- ・コーディネーター育成において資質向上はあるがその内容が不透明であり, 平均的に誰もが同じような資質向上を見込めるようなものではない.
- ・経営面での持続性が困難 (交通費, 謝金など)

文部科学省の現代 GP について (杉山)

文部科学省の現代 GP について中部大学が日立製作所と協力して, 大学カリキュラムの中での ESD 教育プログラムの申請が検討されている. 内容としては「KIZUNA ラーニング」と同じようなシステムであり, 「かすがい KIZUNA」は今後組織としてどのように関わっていくのかを議論する必要があると杉山から説明があった.

今後の方針について

今後の課題, 文部科学省の現代 GP との関わりなどを含めて今後の「かすがい KIZUNA」の方向性について議論が交わされた.

大島 : 無理のない範囲で今年度のような活動を少なくとも一年は続けたい. 保護者も乗り気である.

可児 : 今年度の反省を踏まえ, もう一年続けたい. 自転車操業ではなく, 全体の流れを把握した運営を.

梅田 : 今年度は実績作りの段階であって無理も多かった. 次年度は無理のないように続けてみたい.

関山 : 今年度の反省を生かし次年度も続けてみたいが, 今の体制では不可能. 現代 GP と KIZUNA は大義としては変わらないため存続にこだわる必要はないのではないか.

上野 : このまま解散では関連団体に失礼すぎる. 現代 GP に取り込まれる形の進化的な解散ならば良いが. 次年度は現代 GP の流れを見つつも, 形を残し無理のないように存続してはどうか.

ML の運営, ホームページの管理など. →ホームページ管理については梅田が後任.

その他

- ・各関連組織への今年度事業報告の日程が確認された.

東高森台小学校 : 3 月 21 日実施

市役所 : 3 月 27 日で調整

環境省 : 3 月末実施予定 (4, 5 月の可能性も有) ユネスコ : 4, 5 月実施予定

- ・ウィークエンド教室について 5 月の予定を翌年の 2 月に変更との連絡が梅田よりあった.

感想
◆授業内容について
今回のことで森がいつも元気じゃないことが分かった。森がなかったら洪水が起こることが分かったから、森は大切にしようと思う。
この授業を受けるまで、森は健康で、人が手を加えないほうがいいとおもっていました。今回の授業を受けて考え方が変わりました。森には健康と不健康があるのを知ってすごくびっくり！また森は人が手を加えないと不健康になるのを知りました。森は木が多すぎて過密になるといけないとはじめて知りました。
1か月前のことだから忘れていたけど、振り返ってみたらよく分かりました。本当に木は大切なんだなと思いました。
今の森の状況や良くしていくためにどうすればよいか分かりました。
キツチョウなど、ある一種が絶滅しただけで、私たち人間に関係があることや、森が健康か不健康かで洪水になったりすることもはじめて知りました。「森の健康」など考えたこともなかったし、それがどう人間や生物に響くのかも分かっているよう
もし森がなかったら、雨水がすぐに川に流されて洪水になっちゃうんだと思いました。今から7年前、東海豪雨があったなんて知りませんでした。死者が10人もいて、すごく大変だったんだなと思いました。またお父さんやお母さんに聞いてみたいと思いました。授業のときに、人が手入れをしない林の写真があったけど、草も全然生えてなくてびっくりしました。
森に健康と不健康があるなど知らなかった(7)。
森が不健康だと人にも影響することがわかってよかった。
森がなくなったら空気も悪くなり、生物がいなくなるし洪水が起き、人も死んじゃうから森を大切にしたいと思う。
生物がいなくなるとさびしいし、森がなくなると水がたまり土砂になるので森は大切です。
森のウエスト(円周率)とかよく分かりました。
不健康な森を助けないけど、木を切ることができないので、ゴミをポイ捨てしないとかOo2をできるだけ出さないようにしたいです。
生物がいると森は健康だったとか、円周の求め方とかを教わり、とても楽しかったです。
よく分からないことを説明されたので、すごく勉強になりました。
森が大切なことは知っていたけれど、森がもっと大切だということが分かりました。
意外と面白かった。木のことがよく分かった。
不健康だったから健康にしたい。
難しかったけど楽しかった(2)。
山を登るのは疲れたけど、調査するのは楽しかった。
森の診断は大切だと思った。
◆授業の進行について
ずっと忘れていたことが授業を受けてまた思い出した。私が思い出したということは、洋さんが分かりやすく教えてくれたからです。
授業の進め方も楽しく面白かったです。お兄さんもお姉さんもやさしくて楽しかったです(2)。
森の健康診断は休んでいたのですが、よく分かりました。(2)
私も大きくなったら、森を大切に、動物や地球を守ろうと思いました。本当にありがとうございました。
授業者(関山君)がよかった。
よく意味が分からなかった。
弱くなった。
疲れた。
◆PGIについて
コンピュータのクイズは最後はできなかったけど、よく勉強になりました。またやりたいです。
コンピュータのクイズをやったことは面白かった。ありがとうございました。
パソコンが楽しかった(自分にIDがあるなんて知らなかった)。
◆その他
色んなところに行きたい

「かすが WIZUNA」の参加に関する評価シート

(4) 学年 (氏名:)

かすが WIZUNA の活動を通じた自己評価 (学生記入欄)						
区分	項目	達成度				
		5	4	3	2	1
使命感や責任感	役割に対する責務を理解した	☐	☐	☐	☐	☐
	児童に対する責務を理解した	☐	☐	☐	☐	☐
社会性や対人関係	打合せに積極的に参加した	☐	☐	☐	☐	☐
	挨拶や言葉遣いを気をつけた	☐	☐	☐	☐	☐
体の健康診断	児童に積極的に話しかけた	☐	☐	☐	☐	☐
	児童をまとめることができた	☐	☐	☐	☐	☐
教科指導力	個々の児童の理解状況に応じた対応・支援を行った	☐	☐	☐	☐	☐
	生徒の関心をひきつける授業を企画立案した	☐	☐	☐	☐	☐
	教材・教具の教育的有効性	☐	☐	☐	☐	☐
	物事を分かりやすく伝えた	☐	☐	☐	☐	☐
	教える前に自分も復習を行った	☐	☐	☐	☐	☐

達成度の高い項目・低い項目の理由

児童の理解にたいた対応が、回ごと、授業に合わせた児童が数おこえた。教材自体は、関心をひきつけた。また、結果的に全ての児童にわたった教材ではなかったといえる。児童の理解、関心、学習のレベルに合わせた対応が必要である。

来年度、かすが WIZUNA でやってみたいこと

今年度の反省を踏まえ、新しい教材を作成してみたい。

教員による評価 (担当教員記入欄)						
区分	項目	達成度				
		5	4	3	2	1
使命感や責任感	役割に対する責務を理解した	☐	☐	☐	☐	☐
	児童に対する責務を理解した	☐	☐	☐	☐	☐
社会性や対人関係	打合せに積極的に参加した	☐	☐	☐	☐	☐
	挨拶や言葉遣いを気をつけた	☐	☐	☐	☐	☐
体の健康診断	児童に積極的に話しかけた	☐	☐	☐	☐	☐
	児童をまとめることができた	☐	☐	☐	☐	☐
教科指導力	個々の児童の理解状況に応じた対応・支援を行った	☐	☐	☐	☐	☐
	生徒の関心をひきつける授業を企画立案した	☐	☐	☐	☐	☐
	教材・教具の教育的有効性	☐	☐	☐	☐	☐
	物事を分かりやすく伝えた	☐	☐	☐	☐	☐
	教える前に自分も復習を行った	☐	☐	☐	☐	☐

所見

本年度の活動の主要メンバーとして、来年度に引き継ぎを託した。会議後における報告量も次第に多くなり、その内容も質に向上した。ラベンダーの活動と連携し、活動の目的や意義を伝える。また、活動の成果や課題を共有し、今後の活動に活かす。また、活動の成果や課題を共有し、今後の活動に活かす。また、活動の成果や課題を共有し、今後の活動に活かす。

(8) 広報関連資料

本推進室では平成19年度に、以下の広報事業を実施した。

No	区分	概要		内容
1	シンポジウム	保護者 ESD (添付資料 Y)	2007年9月4日(火) 場所:春日井市立東高森台小学校 参加者:春日井市東高森台小学校 保護者11名(PTA 含) 中部大学教員1名	◆8月20日のアンケート結果をもとに一時間ほど話し合う。 ◆保護者側からの意見として「子ども達とともに活動に参加してみたい」「今後も今回のような説明会の場をもってほしい」など本活動に期待を示す発言が多く聞かれた。
2		中部 RCE が主催するシンポジウムにて発表	2008年1月14日(月) 1月27日(日) 場所:中部大学 参加者:中部地区の ESD 推進者 100名程度	◆事業報告 ◆グッドプラクティス賞を受賞
		中部 EPO との共催シンポジウム	2008年2月9日(日) 場所:春日井市内の寺 参加者:中部地区の ESD 推進者 50名程度	
3	説明会	校長説明会 (添付資料 Z)	2007年11月6日(火) 参加者:春日井市立小学校校長 38名	◆事業の進捗状況を説明 ◆パンフレットの配布
4	HP	ホームページの立ち上げ (添付資料 a)	Kasugaikizuna.jp ドメインの HP を立ち上げた。	

平成19年9月4日

東高森台小学校保護者殿

春日井市立東高森台小学校長

今 津 達 夫

春日井市立東高森台小学校PTA会長

梅 田 直 宏

平成19年度 国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業

春日井地区 ESD推進室 「かすがいKIZUNA」

世話人 中部大学応用生物学部環境生物科学科 講師 上野薫

東高森台小学校児童の教育目標について

本日はお忙しい中、ご参加くださり誠にありがとうございます。

東高森台小学校は、日々、保護者・地域の皆様方と連携しながら、児童の教育環境づくりについて、取り組んでまいりたいと考えております。しかしながら、近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しております。

そこで、今後、東高森台小学校の子どもたちをどう育てていくべきか、保護者の皆様方にご意見を頂戴したく、本日、保護者の皆様と教員による交流会を開催いたしました。ぜひ、子どもたちを育むうえでの考え方について、ご意見を頂戴したく、宜しく願いいたします。

なお、本交流会は、東高森台小学校と春日井地区ESD推進団体「かすがいKIZUNA」(※)の共催にて実施しております。

※春日井東部地区にて実践している「人と自然をいたわる心の育成」を目標とした自然保全活動・環境教育の推進委員会。

平成18～19年度の環境省モデル地区として採択。

1. 東高森台小学校として育てたい子ども像

東高森台小学校と「かすがいKIZUNA」は、育成すべき子ども像を次のように掲げます。

「命の大切さを理解し人や自然と共存できる子ども」

2. 子どもたちの意識調査

下記の概要で、東高森台小学校の児童の実態を調査しました。

(1) 調査目的

東高森台小学校の児童が、現在、人や自然とどの程度関わりをもっているかを調査しました。

(2) 実施概要

- ① 実施日時:平成19年8月20日(月)
- ② 実施方法:2択式のアンケート調査
- ③ 対象:本校の4～6学年(無記名)

3. 学年別の調査結果と今後の総合的な学習の時間における教育活動

各学年の調査結果を下記に示します。今後、本結果の改善を目指し、各学年の授業にて、様々な活動に取り組んで参ります。是非、保護者の皆様におかれましても、子どもたちといっしょに活動に参加していただきたいと思います。尚、各活動の詳細については、別途、ご案内させていただきます。

■4学年 教育目標: 生物の命をいたわる心の育成

※数字は%(以下同)

No	設問	はい	いいえ
1	「家で動物(ペット)の世話をしたことがありますか」	74	26
2	「家のベランダや庭で植物に水をやったり、土をかけたりしたことがありますか」	84	16
3	「家で虫を飼ったことがありますか」	74	26
4	「家族と動物園や植物園で生き物を観察したことがありますか」	42	58
5	「ウミガメやチョウなどの住む場所が減っていることを知っていますか」	34	66

自然と人間の関わりを理解するうえで、自然に積極的に関わる機会是不可欠と考えます。しかし、現状は、約6割の子どもたちが「家族と動物園や植物園で生き物を観察したことがない」という結果です。

■5学年 教育目標: 広い視野で自然を大切に思う心の育成

No	設問	はい	いいえ
1	「休みの日に家族と近くの山に行ったことがありますか」	40	60
2	「小さい頃に、春日井の山が崩れたり、川があふれたことを知っていますか」	30	70
3	「新聞やテレビで九州の町が水であふれたり、四国で雨が降らず困っている人たちの様子をみたことがありますか」	50	50
4	「外国で山の木がなくなり砂漠が増えていることを知っていますか」	40	60
5	「近所の人たちと草刈りやごみ拾いなどの活動をしたことがありますか」	65	35

自然を大切に思う心の育成には、人間の生活と自然の関係に触れる体験が必要です。しかし、現状は、約6割の子どもたちが「休みの日に家族と近くの山に行ったことがない」という結果です。

■6学年 教育目標: 人を思いやる心の育成

No	設問	はい	いいえ
1	「学校であったことを家で家族に話していますか」	63	35
2	「低学年や幼稚園の子と学校以外で遊んだことがありますか」	80	20
3	「近所のおじいさんやおばあさんと話したことがありますか」	70	28
4	「お店や駅で点字や車椅子用の坂をみたことがありますか」	70	28
5	「電車やバスで人に席を譲ったことはありますか」	53	47

人を思いやる心を育むうえで、人と接する機会是不可欠と考えます。しかし、現状は、約5割の子どもたちが「電車やバスで人に席を譲ったことがない」という結果です。

お金を得るに際すためにも、目の利権をものに延して、命の賭さず、や、事の善悪を以てカチコチを教習の中に詰め込み、得た、得ない、大に、に誇りよう教育する成敗がある、と驚かす。私たちが読んでいるKINGは、今頃、市内の各小中校で取り直されていく総合学習などの時間をお借りして、下町の心を養成するお手伝いをなさせていたのだと



・KIZUNAアーニツタ
子供たちには「命」「福祉」「環境」について体験を通して学習する場（基礎学力を養う場）を提供します。
③コープアーニツタは大学生・講師：大学生、大学教員、及び専門知識を持つ市民・T.A.：大学生

残部は余のつながりから、より広く、いかに
のを皆与ふを實現する全ての人々を救済と
し、祖國とのつながりを取りつゝ、活動
を展しむ。

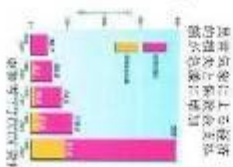
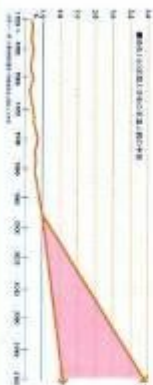
最近、平出を遊ささんに事件が世間周知されています。奇学校や昔子さんが平出を守っているために日本列島に迫られているおられます。貴族「身を守る事」は、なごさのひとです。貴族の多岐にわたるは、どの場面にも入っているのです。



- 1 環境教育：環境を保全する能力の育成
- 2 国際教育：世界的視座を持つグローバル市民の育成
- 3 情報教育：人を思いやる力の育成
- 4 福祉教育：人をいたわる力の育成
- 5 国際：人に伝わる力の育成

- 地球温暖化をこのままにしてておくと-

熱帯気候にあり海面上 1m 上昇すると日本でも 410 万人に被害が及ぶ。地球の気候は、20 世紀の間に 0.4〜0.8℃上昇しました。とりわけ 1995 年以降の温暖化傾向が顕著で、このまま進むと 2100 年には、1.4〜6.8℃上昇すると推定されています。



この結果から、このまゝを模倣せようとする児童・生徒は、7割以上いる。一方、はなから「困っている人へ手助けをした」とあると回答した児童・生徒は既に前記のとおり、学年もあり、学年ごとの、このことから、思いやりの心を養うべく、この結果の一端の元を求められている。

この結果から、このまゝを模倣せようとする児童・生徒は、7割以上いる。一方、はなから「困っている人へ手助けをした」とあると回答した児童・生徒は既に前記のとおり、学年もあり、学年ごとの、このことから、思いやりの心を養うべく、この結果の一端の元を求められている。

かすがい KIZUNA ホームページ
<http://www.kasugaikizuna.jp>



本報告書は、以下の用紙を使用する

**リサイクルPPC用紙
古紙パルプ 100%
白色度 72%**